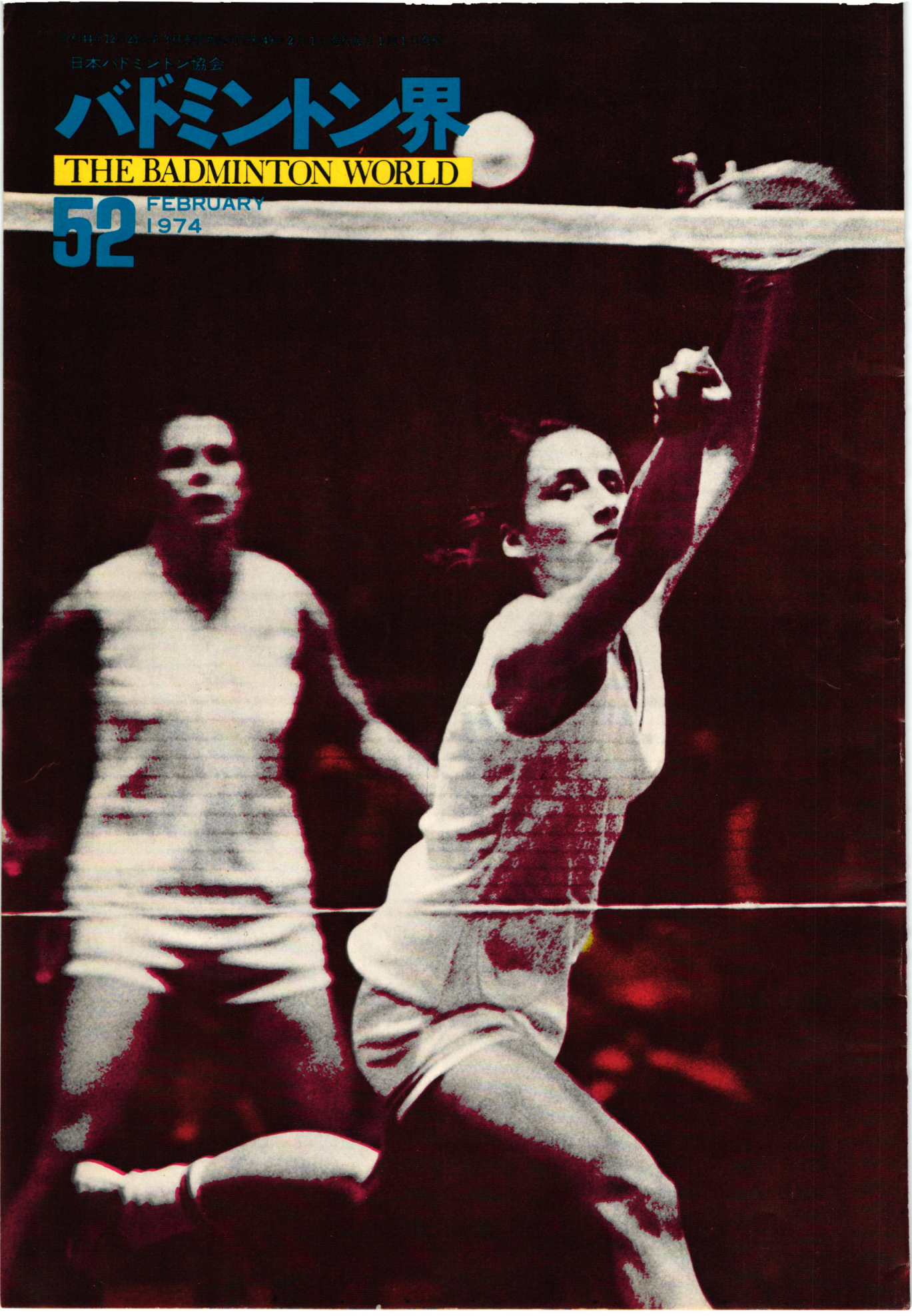
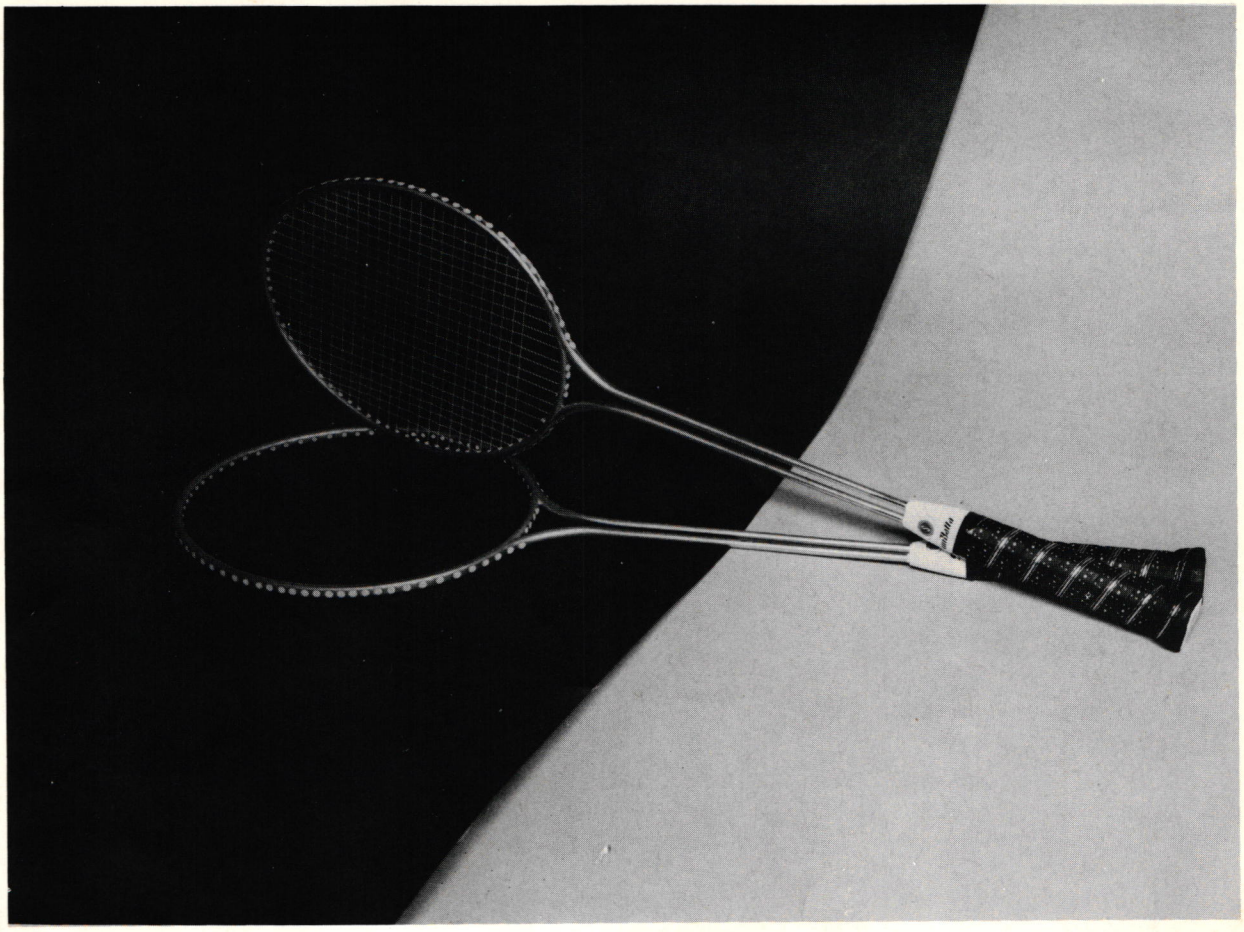
日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

52 FEBRUARY 1974



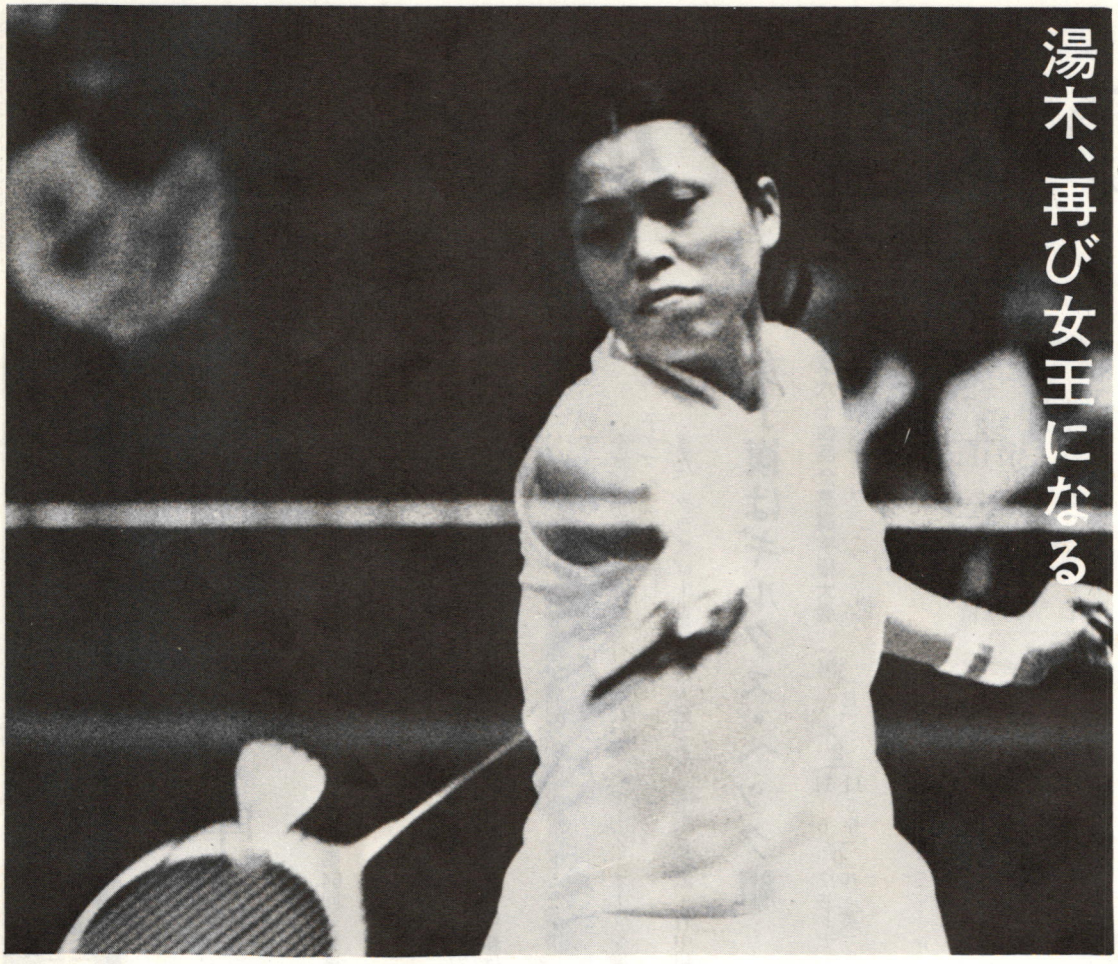


ALL STEEL RACKET SunBatta TWIN SHAFT

究明され！
完成された！
S-74
ALL ROUND

プレーヤーが長い間求めていたオールスチールが誕生しました。
従来のオールスチールラケットの利点及び欠点をあらゆる角度から究明され改良をし今ここに完成され皆様の目の前に現われました。
ツインシャフトの採用によって、フレームとシャフトとのひねりが最小限に押えられ自由自在なショットを楽しむ事が出来るでしょう。
アタックによし、レシーブによし、それがＳ-74オールラウンドです。
◇フレームのみ（ケース付）￥ 5,000

SunBatta TOKYO サンバタ



湯木、再び女王になる

バドミントン界 〈49年2月号〉

★湯木、輝く二度目の女王の座へ……2
池田・栂野尾もベスト4に食いこむ……3
デンマーク選手権・グラスゴー招待大会……4
★体当たり実戦教室（小島一平）〈第二回〉……6
★私の歩んできた道（中山紀子）〈第一回〉……8
中国のバドミントン（曹復）……10
★香港招待試合（写真集）……13
★第一回関東家庭婦人大会（写真集）……21
ユーバー杯防衛への抱負（小飼栄一）……29
第一回関東家庭婦人大会に参加して（本田智恵子）……30
バドミントン指導について（伊藤俊彦）……32
アマチュア界の動き……34
マスコミのとらえたバドミントン……37
協会通信……38
お知らせ・編集室から・次号予告……40

スタッフ／表紙撮影・山田真市／同製作・小浜正道／グラフ写真・山田真市／協力・日本協会事務局、各加盟団体、愛読者

全英選手権で見事シングルス優勝

相沢・竹中組は三連勝ならず

の女王の座へ

個人戦で事実上の世界選手権大会といわれる第64回全英選手権は、三月二十日から四日間、ロンドン郊外のウェンブレーで開催された。

今年は〝池田信孝（電電東京）、栂野尾昌一（ヨネックス）、湯木博恵（河崎ラケット）、相沢マチ子（ヨネックス）、竹中悦子（ヨネックス）、池田美加（河崎ラケット）、銭谷欣治（中央大学）の七名が参加したが、湯木博恵が期待どおり、シングルスで優勝した。湯木の全英タイトル獲得は、一九六九年に次いで二度目の栄冠

一方女子ダブルスで三連勝を期待された、相沢・竹中組は、準々決勝でボクソール・ウェトナル組（イギリス）にストレートで敗れ去った。

男子は、池田・栂野尾組が健闘し、準決勝に進んだが惜しくも優勝ペアのチュンチュン・ヴジュディ組（インドネシア）に敗れ、決勝進出はならなかった。

全英選手権に先立って行なわれたデンマーク・オープン選手権では、湯木が女子シングルスで、相沢・竹中組が女子ダブルスで優勝した。

また、グラスゴー世界招待大会でも、湯木、相沢・竹中組がタイトルを獲得した。

女子複はギルクス・ベック組

◆第六十四回全英選手権大会

（3月20～23日・ウェンブレー）

◇女子シングルス

▽1回戦

スチュアート（ス）　2　11—2　11—2　10—12　1　池田（日）

竹中（日）　2　11—2　11—3　0　シーボルト（ド）

▽2回戦

湯木（日）　2　11—6　11—6　0　ウェトナル（英）

湯木　2　11—0　11—4　0　ミーレ（デ）

▽3回戦

ギルクス（英）　2　11—4　11—6　0　竹中

湯木　2　11—5　11—0　0　ベック（英）

▽準々決勝

湯木　2　12—10　8—11　11—4　1　ビューセコム（オ）

ギルクス　2　11—4　11—8　0　コーペン（デ）

▽決勝

湯木　2　11—6　12—11　0　ギルクス

◇女子ダブルス

▽準々決勝

ベック、ギルクス（英）　2　15—13　18—13　0　湯木、池田（日）

カガード、ストラン（デ）　2　15—12　15—17　15—10　ニールセン、ガードナー（英）

ステンジズマン（ド）　2　12—15　15—9　15—11　1　ロードタイ（ア）

ボクソール、ウェトナル（英）　2　15—8　15—11　0　相沢、竹中（日）

湯木，輝く2度目

池田・栂野尾ベスト4に食いこむ

男子シングルスは今年もハルトノ

◇男子シングルス

▽1回戦

栂野尾（日） 2 15－6 15－7 0 ソーシー（マ）

ウェトナル（英） 2 15－8 15－4 0 池田（日）

スチブンス（英） 2 15－5 15－9 0 銭谷（日）

▽2回戦

ジョンソン（ス） 2 15－1 15－1 0 栂野尾

グナラン（マ） 2 15－10 15－9 0 プリ（デ）

ハルトノ（イ） 2 15－6 18－16 11－15 1 ジョンソン（ス）

▽準決勝

ボクソール、ウェトナル 2 15－10 15－10 0 ステデンジズマン

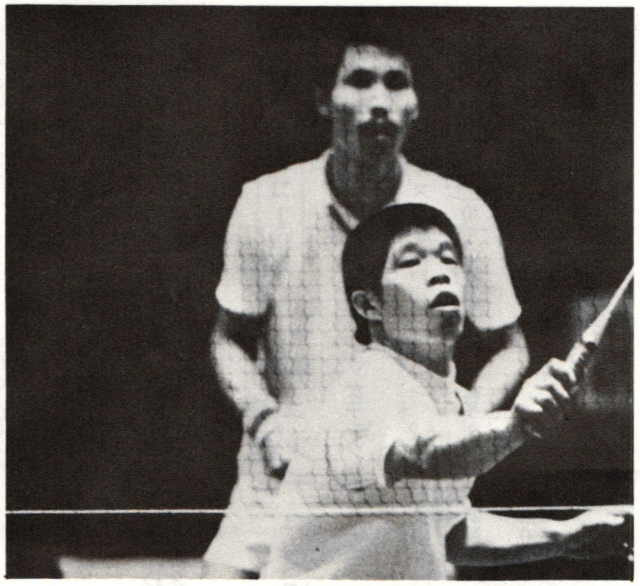
ギルクスベック 2 15－7 15－7 0 カガードストランド

▽決勝

ギルクスベック 2 18－14 15－5 0 ボクソール、ウェトナル



1969年に次ぎ2度目の優勝・湯木博恵



奮闘!! ベスト4入りを果たした池田・栂野尾

▽準々決勝

◇男子ダブルス

池田 栂野尾 2 15－6 12－15 17－16 1 ブリバント、キッド（英）

クリスチャン、スミラト（イ） 2 15－12 15－7 0 スチブンス、トレジット（英）

▽準決勝

チュンチュン、ワジュディ（イ） 2 15－3 15－2 0 池田 栂野尾

▽決勝

ハルトノ 2 8－15 15－9 15－10 1 グナラン

◇混合ダブルス

▽準決勝

エディウェトナル（英） 2 15－8 17－14 0 スコブガード、カガード（デ）

タルボット、ギルクス（英） 2 17－16 15－6 0 トレジット、ボクソール（英）

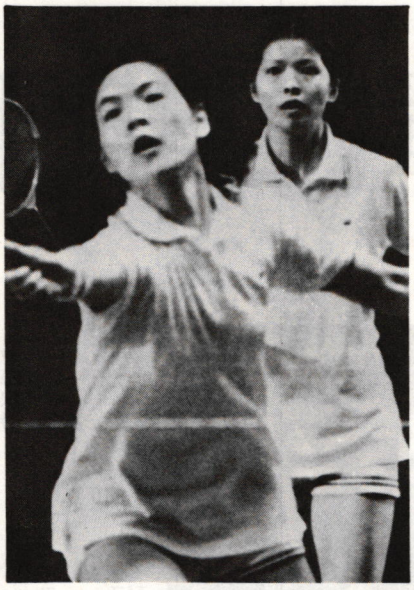
▽決勝

チュンチュン、ワジュディ 2 15－8 15－6 0 クリスチャン、スミラト

エディウェトナル 2 15－5 7－15 15－10 1 タルボット、ギルクス

日本女子、タイトルを独占

デンマーク選手権　男子は複でベスト8に



相沢・竹中組，デンマークでは好調だったが…

◆デンマーク・オープン選手権（3月11―13日・コペンハーゲン）

◇男子シングルス

▽1回戦

梅野尾（日）2（15―6 15―4）0 カスペルセン（デ）

銭谷（日）2（15―12 15―10）0 ロープク（デ）

プアアフア（マ）2（15―7 15―11 12―15）1 池田（日）

▽2回戦

リムスイ・キング（イ）2（15―2 15―9）0 銭谷（日）

キルストロム（ス）2（15―2 15―10 12―15）1 梅野尾（日）

▽決勝

S・プリ（デ）2（15―5 15―11）0 S・ヨンソン（ス）

◇男子ダブルス

▽2回戦

ヘルマン（イ）　銭谷　不戦勝　フォールビド、ペテルセン（デ）

池田　梅野尾（2）（15―12 15―2）0 アンデルセン、ラザロティ（デ）

▽3回戦

グナランソーン（マ）2（15―12 10―15 18―15）1 銭谷 ヘルマン

池田　梅野尾（2）（15―4 10―15 15―6）1 カガードスベンドセン（デ）

▽準々決勝

クリスチャン、ス 2（17―14 15―4）0 池田　梅野尾

チュンチュン、キン（イ）2（15―6 18―14）0 クリスチャン、スミラト

▽決勝

クリスチャン、スミラト（イ）2（15―6 18―14）0 チュンチュン、キン

◇女子シングルス

▽1回戦

カガード（デ）2（12―9 11―2 1―11）1 相沢（日）

竹中（日）2（11―7 11―2）0 メーヤー（デ）

▽2回戦

湯木（日）2（11―6 11―7）0 ヨハンセン（デ）

竹中 2（11―3 11―2）0 リュースケン（オ）

シーボルト（ド）2（11―0 11―5）0 池田（日）

▽準々決勝

湯木（日）2（11―4 11―4 10―12）0 ステデン（ド）

ビューセコム（オ）2（11―7 11―9）0 竹中

▽準決勝

湯木 2（12―9 12―10）0 スチュアート（ス）

コーペン（デ）2（11―9 11―6）0 ビューセコム

▽決勝

湯木 2（12―9 9―12 11―4）1 コーペン

◇女子ダブルス

▽準々決勝

湯木　池田 2（15―7 15―12）0 ハンセン　ヨハンセン（デ）

相沢　竹中 2（15―4 15―11）0 ボストフ　フォージ（デ）

▽決勝

相沢　竹中 2（15―12 18―15）0 ストランド、カガード（デ）

◇混合ダブルス

▽決勝

ストランド、ハン（デ）2（15―3 15―5）0 ジズマン　ボショウ（ド）

（注）記録中の国名略称は次の通り。デ＝デンマーク、ス＝スウェーデン、イ＝インドネシア、オ＝オランダ、ド＝西独、マ＝マレーシア。

スペンド・プリ単制覇

グラスゴー招待　男子複はチュンチュン組

◆第13回グラスゴー世界招待大会（3月15―16日・グラスゴー）

▽男子シングルス決勝

S・プリ（デ）2（15―6 15―12）0 F・デルフス（デ）

▽男子ダブルス決勝

チュンチュン、ワジディ（イ）2（15―4 15―9）0 グナランソーン（マ）

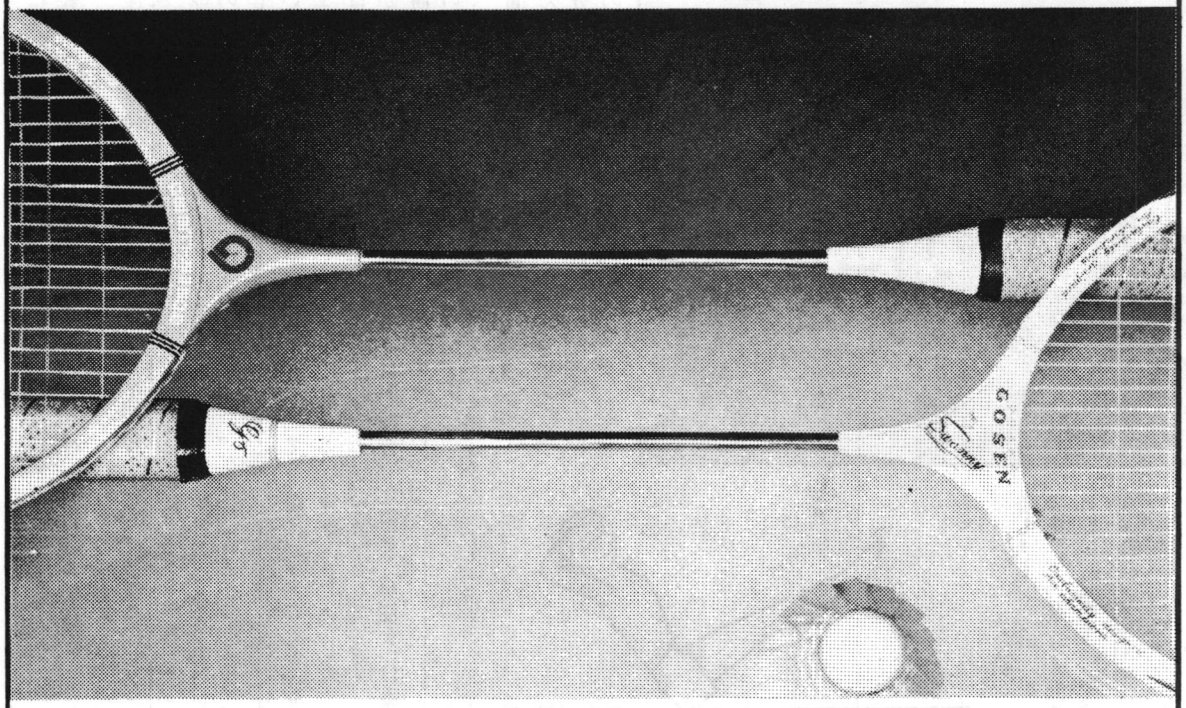
▽女子シングルス決勝

湯木（日）2（12―9 11―6 10―12）1 L・コーベン（デ）

▽女子ダブルス決勝

相沢　竹中（日）2（15―8 15―7）0 ベック　ガードナー（英）

精緻。俊敏。この確かな手応え。
ロング・テーパード・シャフト。



LUBIRD & SWANNY

Gosen Badminton Racket



特殊合板の力強いフレームと、
従来のものよりさらに長くなった
クローム・テーパード・シャフトの強靭性
が強力なバイブレーションを生み出します。
ゴーセン・ルバード、スワニーのロング・シャフトコンビ
が逞しいラケットワークを可能にし、世界のバドミントン
界を陵駕し、そのシャープで逞しい手応えを披露します。

●No.B65ゴーセン・ルバード〔フレーム〕……¥3,800
●No.B60スワニー〔フレーム〕・タオルグリップ付…¥3,800

株式会社ゴーセン
本　　社・大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816(代)
東京営業所・東京都台東区鳥越1-26-1　☎(03)862-6576(代)

実戦教室〈第2回〉
をねらう
生のために＝

小島一平

トレーニングは、地味に長期間にわたって継続することが大切です。

技術は持って生まれた運動神経によって左右されますが、体力はトレーニングをすればするほど身につくものですし、つかないほうがおかしいというものです。しかし、いち早く体力をつけるには、人よりも多くの量をこなさなければならないことはもちろんですが、それ以上に自己との闘いに勝ち、すすんで苦しみの中にはいっていかねばなりません。

ダラダラ長時間行なっても効果はあがりません。とにかく人は人、自分は自分と割り切って、最終的には自分のためになるのですから、最初の準備運動から気持ちを引きしめて、全力でやることです。

そして、あくまでも試合に勝つべくトレーニングを行なわなければ何んにもなりません。よく私は、現在でもそうですが、走っていて苦しくなると、ここでスピードを落としてしまっては相手にやられる、また負けると思いながら走っています。つねに目標を的確にとらえ、試合が近づくにつれ、集中していくことです。

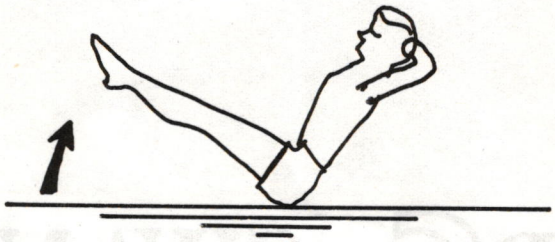
① 腹筋

腹筋は、なぜ必要かといいますと、バック・バウンダリー・ラインへハイクリアもしくはドリブンクリアで追い込まれたときに、打った瞬間、ただちに体勢を立て直し、ホームポジションへ戻ることが必要だからです。そうかといって、腹筋だけではダメで、足腰も強くなければならないことはもちろんです。

腹筋が強くなければなるほど、腹はボコボコと固くなってきますが、きたえていない人の腹はブヨブヨしています。

さて、腹筋をつける方法を紹介しましょう。

Ⓐ床にすわり、手を頭のうしろに組み、足をそろえて床から二十センチもちあげる。これはもっとも楽な初歩的なもので、中学生向きで、テレビを見ながらでもできます。



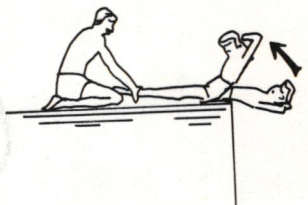
Ⓐ一人でできる腹筋運動

Ⓑ床に寝て体を起こす。この場合注意することは、倒す時はゆっくりでもよいが、起こす時は全力を振りしぼって起き上がることにより、いっそう身につくのです。

Ⓒ倒す方向に空間をつくる。たとえば体育館のステージや、長椅子を利用し、パートナーに足を押えてもらう。この方法は、倒す場合にも体を支えなければならないので、起こすのと同様に負担がかかり、かなり苦しい。



Ⓑ床に寝て行なう腹筋運動



Ⓒ二人組みの腹筋運動

Ⓓ床に寝て、パートナーの足をつかみ、パートナーに自分の足を前後左右に突き放してもらい、床に足をつけることなく、押された力に対して、早くブレーキをかけ、すぐに直角に戻す。

以上の四種類を毎日変化をつける意味で、交互に行なうのもよいでしょう。

② 背筋

背筋の養成は、床にうつぶせに寝て、パートナーに足を押えてもらい、思い切り上体をもちあげる。

③ 腕力

Ⓐ腕立て伏せ

これは二十回、三十回と量をこなすことも必要ですが、それよりも十回を全力で行ない、二十秒ほど休み、また十回と行な

●連載

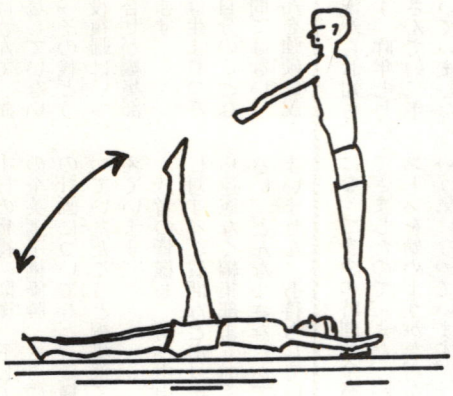
体当たり

＝インターハイ

中高校

●Ippei Kojima

Ⓓ一人が床に寝て，もう一人が足をつきはなして腹筋をきたえる



うほうが効果的です。

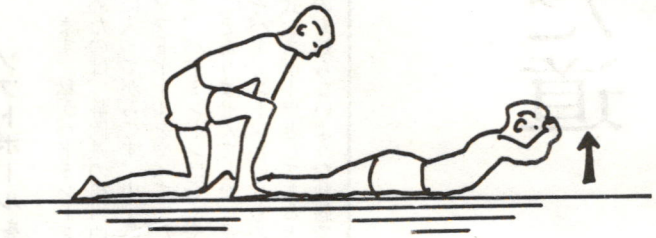
Ⓑ鉄棒での懸垂

中学生は十回、高校生は二十回ほどできるように行なうことです。懸垂のよいところは、腕の力がおとろえた場合はベストの時よりも回数が減るし、また練習量が減れば、それだけきつくなります。ですから、体調の良し悪しをつかむバロメーターになることです。

Ⓒ鉄棒への跳び上がり

これは腕力をつけるだけでなく、足腰の鍛練にもなり、一石二鳥ですので、ぜひ実行してください。注意する点は、着地した際、カカトをつけず、つま先でタイミングをとり、いち早くけり上げて、鉄棒に跳びつくことです。

Ⓔ二人組になって背筋をきたえる



④ 手首

日本のプレーヤーは、過去多くの選手を見た場合、フォアハンドは外国の選手に見劣りしませんが、ことバックハンドになると弱いのは確かです。

現在のバドミントンは、スピード化しており、大きなフォームで打つとそれだけ、打ち終わった後のフォロースルーに時間を費やすため、次のプレーにすぐに移ることができません。ですから、手首が強くなることはそれだけ小さな無駄のないフォームで打てるわけです。

中学・高校生の皆さんには、バックハンドを強くすることも大切ですが、それ以上に、まずコートを速く走り、絶対にフォアハンドで打つということを心がけてください。

というのは、バックハンドで打つ球は、フォアハンドに比べて、威力が半減してしまうからです。そこで、とにかくコートの中を縦横に走りまくることが理想なのです。

Ⓐまず初心者はラケット振りから始めましょう。

手首といっても、フォアハンド、サイドアーム、アンダーハンドなどがあるので、コンスタントに平均して行なってください。振り方も強く、鋭く行ないましょう。

Ⓑビンに水を入れたり、砂を入れたりして振る。

これもテレビを見ながらでもできますから、必ず、毎日少しずつでもよいから行なうこと。注意する点は、急激に重いものを振ると手首をこわしてしまいますから、徐々に、軽いものから始めて重くすることです。

私はバックハンドが弱くて苦労しましたが、飛ばないからどうしてもフォアで打たなければなりません。そのためにはトレーニングを積んで、体力をつけ、すべての球をフォアで取ることを心がけました。

今思えば、それがよい結果を生んだことは確かです。というのは、何事もごまかしのプレーは最後になって通用せず、やはり基本に忠実であり、真正面から取り組むことが必要だということです。

ですから、皆さんも、横着なプレーをせず、とにかく何度もいいますが、球の下に速く走り、フォアで球を捕えてください。

最後に、集中力のない選手に大きな飛躍は望めません。

（次回は、基礎的なシャトル打ちの練習方法について）

●新連載
私の歩んできた道

中山紀子（旧姓高木）さんといえば、現在第一線から遠ざかっているとはいえ、押しも押されもせぬ、世界の第一人者。朋子ちゃんの出産をはさんで、試合には約二年間出場していないが、ファンからは〝その後どうしているのか〟〝現役復帰はいつなのか〟という問合せが編集部あてに殺到しています。

そこで、書くのは生まれつき大の苦手、とても自分のことなど語れるほどの人間ではない、と固辞する中山さんを強硬に説き伏せ、ついに**〝私の歩んできた道〟**と題しての連載をお願いしました。

中学・高校時代から、ユーバー杯の獲得、防衛、そして念願の全英選手権優勝、さらに今後の計画についてなど、縦横に綴っていただこうと編集部では考えています。

読者の皆様も、何か中山さんに対するご質問などありましたら遠慮なく編集部までお寄せ下さい。どんな小さなことでもかまいません。お待ちしています。

最初に現在の状況からお知らせしようと思います。昨年七月の長女の誕生をはさんで約二年間、第一線から退いていました。この間できるだけ試合などは見るようにしていたのですが、やはり思うようにはいきませんでした。

しかし、ようやく子供も大きくなり、少し手がはなせるようになって多少の時間的余裕もできましたので、また、バドミントンを始めようかな、などという気になっています。

そこで、家のまわりを走ったり、ナワ跳びをしたり、といった程度のことを始めている状況です。ただ、現在のところは体力もかなり落ちていますし、とても試合うんぬんという段階ではありません。

それでは、これから私が今まで歩んできた道をお話ししたいと思いますが、私にはこれがバドミントンの正しいやり方だとか、こうすべきだ、などといえるようなものはありませんので、とにかく、私の体験を通して、読者の方に何らかのヒントや、考える材料になれば幸いだと考えています。

中学時代はソフトボールを

まず、私がバドミントンを始めたのは、静岡県の掛川西高校に入ってからです。中学時代はソフトボールをやっていただけで、バドミントンは全くやったことありませんでした。それこそバドミントンというものが正式なスポーツとしてあるというのも知らないような状態でした。

私としては、中学時代に一生懸命にソフトボールと取り組んでいましたので、高校へ進んだときには、もうスポーツから足を洗おうなんて考えていました。ところが、中学の恩師だった萩原洋一先生が、「きみからスポーツをとってしまうのは惜しい。何かスポーツを続けるべきだ」と言われまして、それでは何かやろうということになりました。

私は小さい時から、非常に野球が好きで、甲子園にものすごくあこがれていました。なぜ男に生まれてこなかったのだろうとよく思ったほどです。

甲子園がムリならインターハイを

そこで、甲子園というのはムリだけど、それに匹敵するような全国大会に出場するチャンスがあるといわれてバドミントンを選んだわけです。

ですからもし、その萩原先生からそういうことを言われなかったら私はバドミントンをやっていなかったと思います。

高校へはいると藤江稔先生という方が非常に熱心に指導してくださって、高校で初めてラケットを握った私が、ある程度の成績をおさめられるまで引っ張ってくださいました。

不運にも手首をこわす

そして二年のインターハイのシングルスで四位になり、これなら翌年のインターハイでは優勝できると太鼓判を押されました。ところが、三年生になったら手首をこわしてしまい、県の予選から全然ダメでした。しかし、ダブルスだけは、パートナーの天野博江さんが頑張るからということで、私は手にラケットを繃帯でくくりつけ、ただ前に立っているだけで出場しました。そして、天野さんが全部拾ってくれて、ようやくインターハイへの出場権を握ることができました。

そして、本大会ではダブルスで三位になりました。その時のシングルスで優勝したのは、同じ静岡の望野さん（富士見高）だったのですが、私は国体の予選ではその望野さんに勝っていました。ですから、手首さえ怪我していなければ……と、非常にくやしい思いをしました。

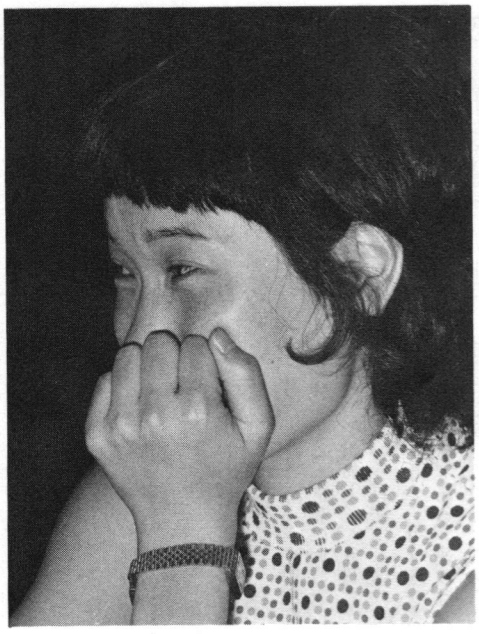
もうやめようと思ったが……

高校時代の印象で一番強く残っているのは、この時感じた何

〈第一回〉

不運のインターハイを乗り越えて

●中山紀子



か運に見放されたという気持で、もうこれでバドミントンはやめようというふうに思ったりしました。

しかし、どうしても全国のタイトルをとるという夢が捨て切れず、もう一度挑戦してみようという気持になっていたところ、たまたま日本女子体育大学の今井先生が声をかけてくださって、二年間お世話になることになりました。

他の人より早く体育館へ

高校時代の思い出というと、今の高校生の人たちもそうでしょうが、バドミントンが好きで好きで、授業の終わるのが待ち遠しくて、終わるとそれこそ体育館へとんでいきました。

日曜日でも、お正月でも、とにかくバドミントンをやりたくて、また、バドミントンをやるのが楽しみでした。

とても今の自分には考えられませんけれども、その頃は、そういう意味では非常に楽しかったことを覚えています。

苦しかったことは、練習はもちろんきびしかったですし、身体的にはきつかったことも沢山ありました。ただ、自分が好きでやっているわけですから、別に強いられてやっているわけではありませんでしたから、他の人が一時間前に来るなら、私はそれよりも早く行って、走ったり、ひととおりのことを先にやって、そしてまたみんなと一緒にやったりしました。

まず正確さを身につけようとした

ご承知のとおり、私は体も大きくありませんし、ずばぬけた力があるわけでもありませんが私は、まず正確さを身につけようと思って練習をしました。ドロップショットの練習をするにしても、一本一本、これを絶対に入れなければならないと思いながらやりました。たとえ、少しくらい浮いても、ネットにひっかけるよりはいいということで練習しました。

あとは、かたよらない体づくりということで、バスケットボールをやったり、いろいろ応用のきくトレーニングをやりました。

そのころの考え方は、その後もずっと続いています。

とにかく走り、拾い、返す

高校時代というものを振り返ってみますと、やはり、自分が好きでやっていたために、人から言われて、強いられてやったという意識はありませんでした。ですから、身体的に苦しいことはあっても、精神的にはちっとも苦しくありませんでした。

やはり、自分からすすんでやるということが大切だと思います。このことは現在の高校生の人たちにもあてはまるのではないでしょうか。人から言われる前に自分でやるということでずい分身につくかどうかが変わってくると思います。

私たちの高校時代というのはバドミントンそのものも現在ほど発達していませんでしたので、とにかく走って拾いまくり、相手のコートに返すということを考えていました。ですから、バックハンドもうまく打てませんでしたが、やはり、とにかく走り、拾い、返すという基本は変わらないのではないでしょうか。

バドミントンに〝勝つ秘訣〟はない

それから、よく若い人たちから〝勝つ秘訣〟を教えてほしいといわれますが、そんなものがあれば苦労はないわけで、やはり自分が苦しんでいく過程で、みつけていくべきものだし、また、これをやれば勝つなどというものはないと思います。

こんなことから、何か理論に走り過ぎているんじゃないかなと思うことがあります。地道な努力の積み重ねがなくては、よい成果は得られないわけで、バドミントンに限らず、何事も、近道などはないと思っています。

（つづく）

中国のバドミントン

曹　復

本稿は、「人民中国」2月号に掲載されたものです。中国バドミントン界の現状の一片を知ることができるのではないでしょうか。

また、写真は、中国を二月二十五日から三月三日まで訪れていた、日本協会高倉副理事長が持ち帰った資料からとったものです。いわゆる中国の「バドミントン界」ともいうべきパンフレットです。

バドミントンは中国人民の愛好するスポーツのひとつである。年中春のような気候にめぐまれる広州市の越秀公園には、愛好者のために露天のバドミントン・コートが四面、屋内コートが一面ある。福建省福州市の「五・一」新村（団地）の住民は、建物の間の空き地を利用して風の影響をうけない露天のバドミントン・コートをつくった。中学校や小学校のいちぶでは、バドミントンを体育課の内容にとりいれている。

独特のもち味

中国の卓球が近接速攻を特徴とするならば、「はやく、はげしく、正確に、機敏に」というのが、中国バドミントンの独特のもち味である。簡単にいうと、「はやく、はげしく、正確に、機敏に」という打法は、速攻を中心として相手からリードを奪うということである。速攻は、相手を受身に立たせ、こちらの思うように動かし疲れさせ、そこでチャンスをつかんで思いきりスマッシュに出るのだ。

中国バドミントン・チームはこうした打法によって、一九六三年以降の十年間、世界の強豪チームをいくつか破り、よい成績をおさめてきた。

年輩のコーチや選手は、いたましい記憶をもっている。解放前の中国人民は「東亜の病夫」とよばれていた。したがって、全国バドミントン大会などはもちろんひらかれたためしがないし、バドミントンのシャトルコックをみた者もあまりいなかった。

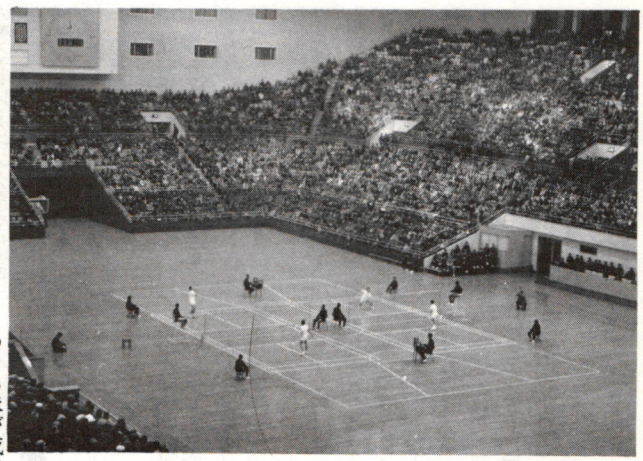
新中国が誕生してまもなく、中国人民の偉大な指導者毛主席は、**「体育活動を発展させて、人民の体位を向上させよう」**とよびかけた。これは、中国人民とスポーツマンを大いにはげました。

一九五三年にひらかれた第一回全国バドミントン大会は、バドミントンを大いに大衆の中にひろめるのに役立った。これをもとにして、全国的な大会が毎年ひらかれるようになった。選手は球技を高める方法をさぐりつづけてきた。一九五九年にひらかれた第一回全国体育大会には、バドミントンの球技も戦術もいちだんと高まった。スマッシュを特徴とするもの、機敏さで相手を制するものなど、それぞれ異なった戦術が全国の各地からあらわれた。しかし、スマッシュを得意とする者が守備によわい、守備のかたい者が攻撃によわいというありさまだった。したがって、独特なもち味を出し、中国の独自な道をあゆまなければならない、と選手たちは深く悟ったのである。

一九六一年、中国卓球チームは、苦しみにめげないねばり強いもち味と、近接速攻の戦術とで、第二十六回世界卓球選手権大会の男子団体戦に優勝した。それは、バドミントン選手をいにはげまし、啓発した。卓球チームに学ぶ過程で、かれらはみずからの実践とむすびつけ、たえず総括を行い、向上をはかり、しだいに、現在の「はやく、はげしく、正確に、機敏に」という独特のもち味をつくりあげていったのである。

それから二年後、つまり、一九六三年、ジャカルタでひらかれた新興勢力競技大会では、このもち味が威力を発揮し、中国はそれぞれ女子団体戦と男子団体戦に優勝した。中国の鮮かな五星紅旗がおもむろにグラウンドの上空にあがっていくのを、中国の選手たちはみな涙ぐんでじっと見つめていた。

社会主義祖国の栄誉をかちとるなかで、選手たちはどのように成長してきたのか、どのように苦しみにたえ鍛練してきたのか。数名の有名な選手について、かれらの歩んだ跡を紹介してみよう。



中国における選手権大会のもよう。
中央2面のコートで男子シングルスが行なわれているが，それを見ようとつめかけた大観衆。
この大衆の支持によって中国のバドミントンはますます盛んとなり，底力がつくといえよう。

練習にはげむ
陳玉娘選手

昨年、デンマークを訪問した中国バドミントン・チームの陳玉娘選手が、そこのバドミントン界の友人に、「もう二十七なのに、どういうわけでまだ結婚しないのですか」と聞かれた。

この二年間、かの女は「もう年も年だし、祖国のためにも力をつくしたのだから、そろそろ結婚しては」と親類や友人からすすめられた。しかし、日頃口数の少ない陳さんは、「祖国のバドミントンのためを思うと、ラケットを手ばなして家庭をもつことを考える時ではまだありません」といつも答えるのであった。陳玉娘選手は、バドミントン・コートで活躍しはじめてから、もう十数年になる。中国共産党にはぐくまれて、すくすくと成長したかの女は、中国バドミントン女子シングルス選手権を数回にわたって獲得し、国際競技会でもよい成績をおさめ、栄誉をかちとったのである。

ところが、栄誉についてかの女はこう考えている――自分は、集団を代表して党と人民に訓練の成果を報告するだけである。かちとった栄誉は、自分を育ててくれた中国共産党と毛主席および援助してくれたまわりの仲間に帰すのが当然である、と。

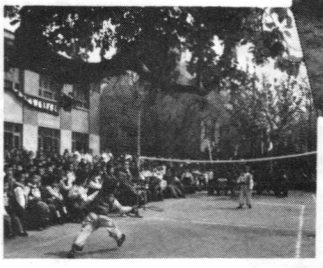
かの女のすぐれた成績は、日頃の懸命な練習とは切りはなすわけにはいかない。同室の鄭恵明さんがつぎのような「秘密」をもらしてくれた。

ある晩、消灯のベルが鳴ったのに、陳玉娘さんのベッドからかすかな音がきこえる。一、二、三と数えたら百あまりにもなった。電灯をつけてみようと思ったが、休んでいる陳さんをじゃましてはいけない。おかしいと思いながらそのままにした。夜があけると、鄭さんはすぐ起きた。ゆうべの音のことを調べようと思ったのである。ところが、陳さんはもうベッドにいない。

「ずいぶん早く練習に出たものだ」と思いながら、ふとその枕もとをみると、ビール瓶が目に入った。「どうしてビールなんか飲みはじめたのだろう」とびっくりした鄭さん。重たい瓶をもちあげてみたら、なかにビールではなく、砂がいっぱい入っている。一キロほどになろうか。これは、陳さんが毎晩ねる前に腕力を強くするのに使っていたのだ。体力をつけるために、かの女は男子の選手と同じように猛練習をしていた。練習量は他の女子選手よりずっと大きいが弱音をはいたことがなく、年中たゆまずにつづけてきたのである。

思想の面でも、陳さんの自覚の高まりははやかった。一九七二年、かの女は光栄にも中国共産党に入党した。かの女はつぎのように宣誓した。「なにもわからなかった子供のわたしを、プロレタリアートの前衛隊の一員に養成してくださったのは党です。だから、一生がい壮麗なプロレタリアの事業にささげようと決意をかためています」と。





（右）海南島のヤシの木の間にネットを張ってバドミントンを楽しむ人たち

（左）ペキンの小学校のグラウンドで行なわれているバドミントン大会のもよう。胸のゼッケンに注意して下さい。

はっきりした目的を
もった湯仙虎さん

スポーツを革命事業の一部分とみなし、革命のために体を鍛え、社会主義祖国の栄誉をかちとり、国際競技会で各国人民と選手間の友情を増進するためにバドミントンをすることは、中国バドミントン選手のもつ崇高な目的と願いである。

しかし、プロレタリア文化大革命前の湯仙虎さんはそう考えていなかった。当時のかれは、「世界チャンピオンになったら、どんなに幸せだろう」と思いこんでいた。世界チャンピオンになることはなにもいけないことではない。大切なのは、なんのためになるか、誰のためになるかということである。だが、かれは、個人の名誉や地位にこだわっていたのである。

こうしたブルジョア的利己主義の思想に支配された湯さんはでしゃばり屋で、コーチやかれより技の低い仲間は眼中になく、コートの照明が悪いといっては練習に力を入れず、床がすべるといってはラケットをふりしぶった。

後に女子選手梁小牧さんの母親のことを聞いて、湯さんは深く教えられた。梁選手の母は解放前、中国の優秀なバレーボール選手だったので、官僚や軍閥や資本家は、かの女をおだて、またその権勢にものをいわせてうるさくかの女につきまとった。ダンス、マージャン、観劇、食事などに誘って、誤った道にひきずりこもうとした。こうした侮辱にたえられなかったかの女は、不本意ながらバレーボールをやめて故国を離れ、一九四九年に新中国が誕生してから、祖国にもどってきたのだ。

梁選手のお母さんの過去から、

湯さんは「個人の前途は祖国の運命ときりはなすことができない、新中国であればこそそれぞれが個人の力を発揮できるのだ」と悟った。ある時農村へ働きにいった。始めかれはきたないのをいやがった。(もし全国の農民がぼくと同じように考えていたら、ぼくたちの食べる食糧はどこから生産されるのだろうか。年中勤勉に働いている農民は、世界選手権をとろうなどとは思っていない)と考えた。

その時、かれは毛主席の著作を学んで、**「だれのためのものかという問題は、根本的な問題であり、原則的な問題である」**ということばをくりかえし考えた。同志たちの援助のもとで、かれはまじめに世界観を改造した。

一九七三年の始め、中国バドミントン・チームがデンマーク訪問のさい、ある試合のまえ、湯さんは風邪をひいてしまった。以前のかれなら、負けたらチャンピオンの名誉にかかわるとおもって、試合に出なかったかもしれない。しかし、今回は「友誼第一、試合第二」の精神をつらぬくために、かれは、休むようにとすすめたコーチや仲間たちの好意もしりぞけて、試合に参加し、思ったよりよい成績をおさめ、観客の賞賛を博したのである。

この試合で、かれは体の不調をかえりみず全力をそそぎこんだ。かれが考えたのは、湯仙虎個人のことではなく、中国人民と世界人民の友情であった。かれは感慨深く「国際試合では、選手にとって、社会主義祖国と世界諸国人民の友誼のために自分のすべてをささげることが最大の幸せであり楽しみです」と語った。

チャンピオンになるまでの侯さん

侯加昌選手のバドミントンをみた人で、そのみごとな技をほめないものはない。バドミントン・コートでは、侯さんはバック・ラインすれすれにシャトルコックを猛烈に打ち返したり、ネットぎわにショートストップしたり、相手を左右にふりまわしたりする。かれは、速攻型で、球の行方が意表をつき、つねに相手を奔命に疲れさせ、足の乱れを誘っておいてからとびあがって猛烈なスマッシュできめる。そうした柔の中に剛をふくみ、積極的にリードをとる打法によってつぎつぎと相手をやぶり、数回にわたって男子シングルスのチャンピオンとなった。

親類や友人には、この弱々しいきゃしゃな青年がこんなにもはやく進歩するとは、思いもよらないことであった。広州体育学院に入ったばかりのころ、かれの成績はビリから一番、女子選手相手の練習で精いっぱいという有様であった。二、三セット打つと、はァはァと息切れし、顔があおざめて、打つ手に力が入らなかった。

党の育成と人民の期待にそむかないために、コーチの指導のもとに、かれは系統的に体質と球技の訓練にはげみはじめた。腕の力を強めるために亜鈴をあげ、縄とびで機敏さをつけ、マラソンで耐久力を養った、股の部分が弱いことに気がついてからは、とくに重量あげのコーチについて訓練した。

スマッシュ技術をマスターするために、かれは二百余回もはげしく打ちつづけ、しかも落球点のコントロールにつとめた。そのほか、かれはバックハンドによるスマッシュの練習にはげみ、更にロングストローク、プッシュ、ストップ、フットワークなど全面的な技を身につけた。

陳玉娘、湯仙虎、侯加昌らの各選手が成長した過程こそ、こんにちの新中国のスポーツマンの縮図である。



全国から集まったジュニアたちを指導する湯仙虎選手，少年たちは胸に郷土の名をつけている。



香港国際招待大会写真集

1973年12月5日から10日まで，香港国際招待大会には伊藤鉱一監督以下選手役員6名が参加した。参加国は中国，デンマーク，西ドイツ，マレーシア，フィリピン，シンガポール，スウェーデン，タイ，日本，香港の10か国。これはそのときのスナップ集。





本大会プログラム

香港バドミントン協会会長湯恩佳氏の開会あいさつ

整列した各国プラカード（…こういうふうに書くのか…）



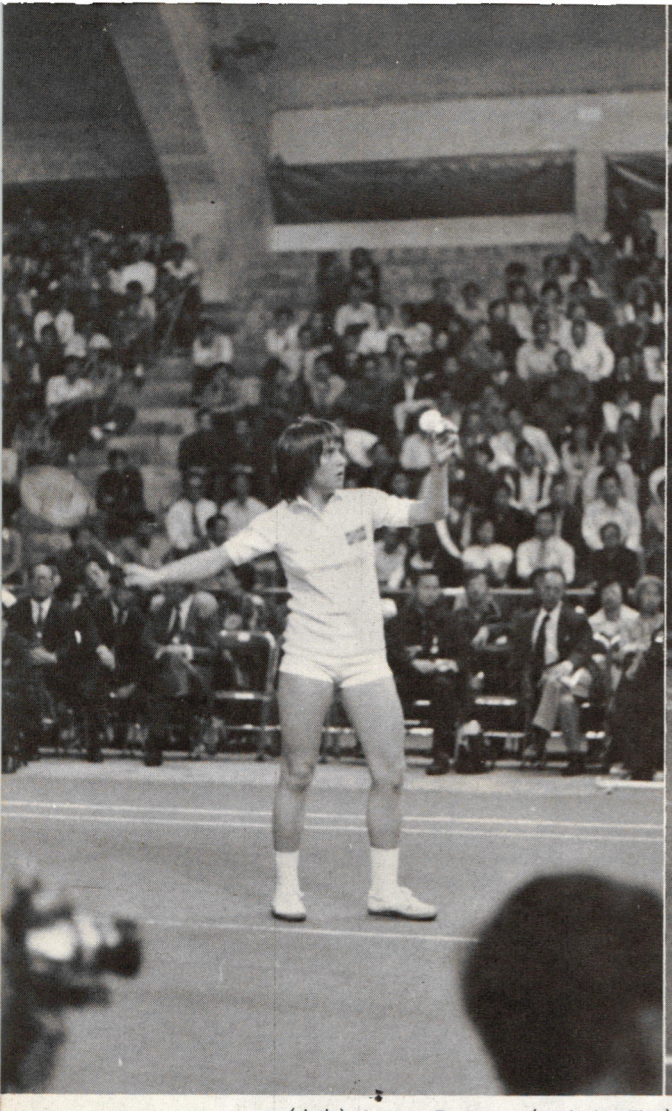


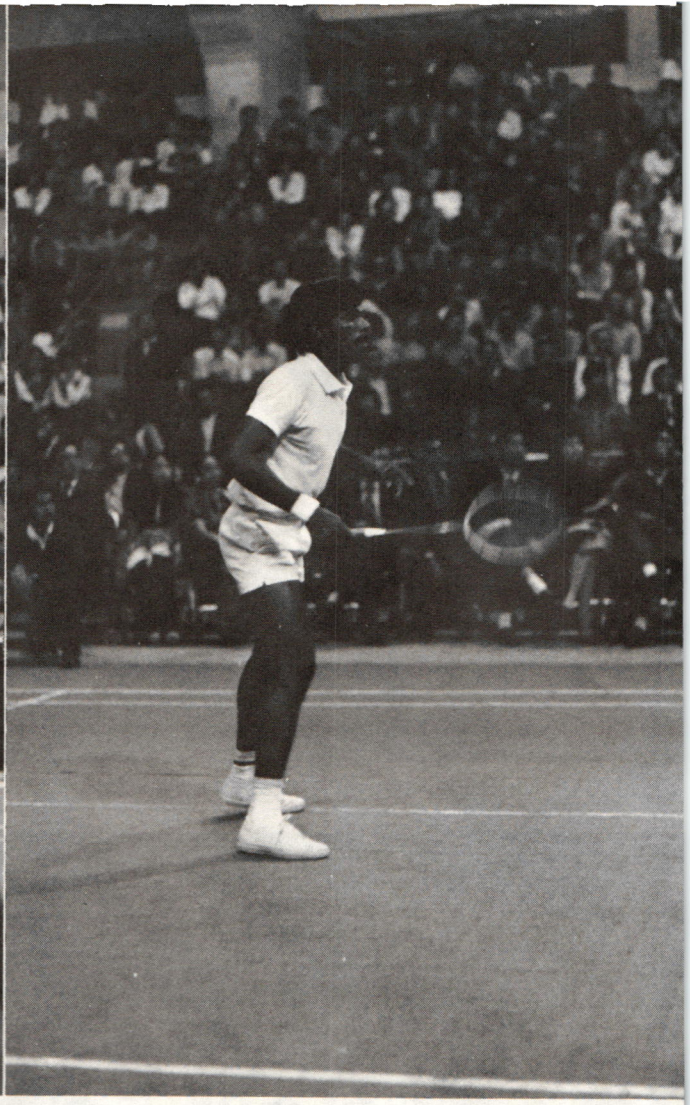
せいぞろい／各国選手団



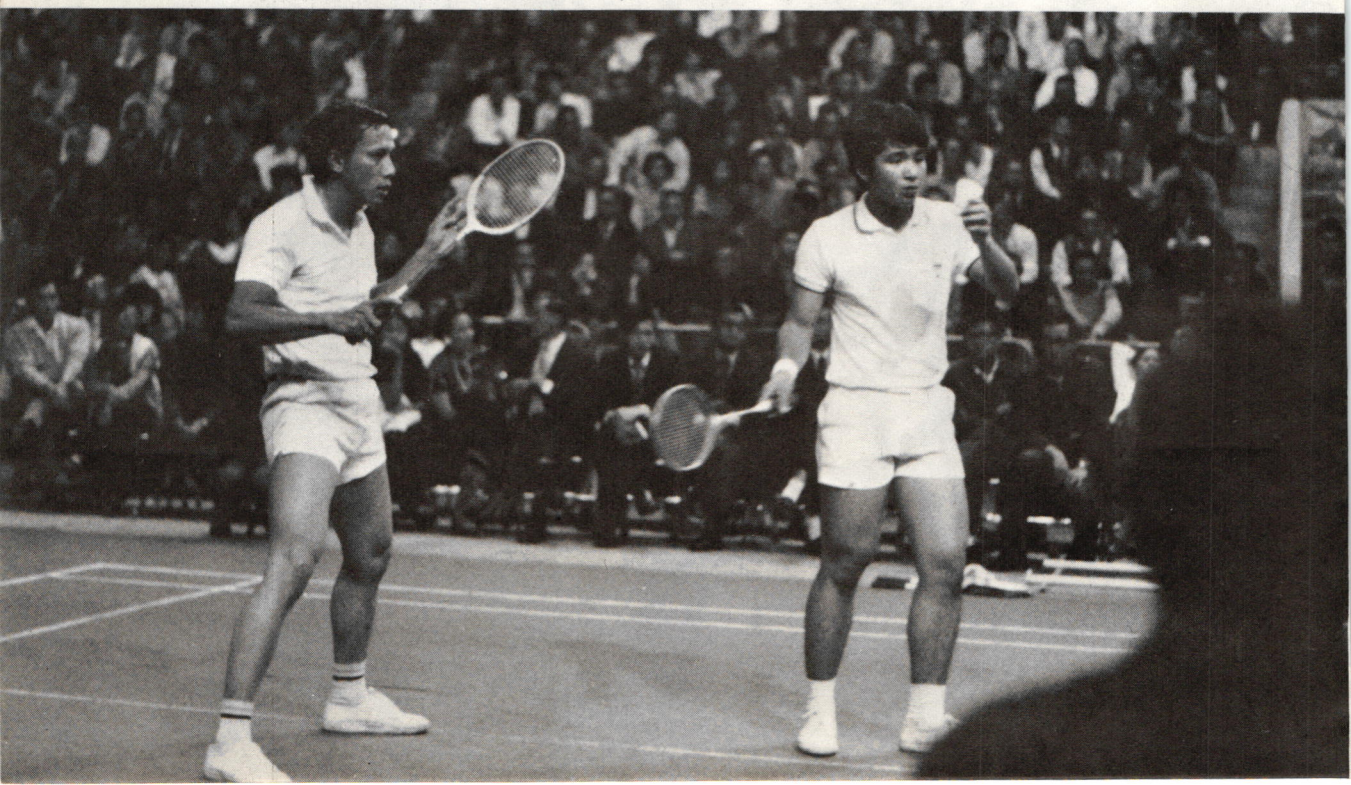
おなじみ中国チーム(上)と西ドイツチーム(下)

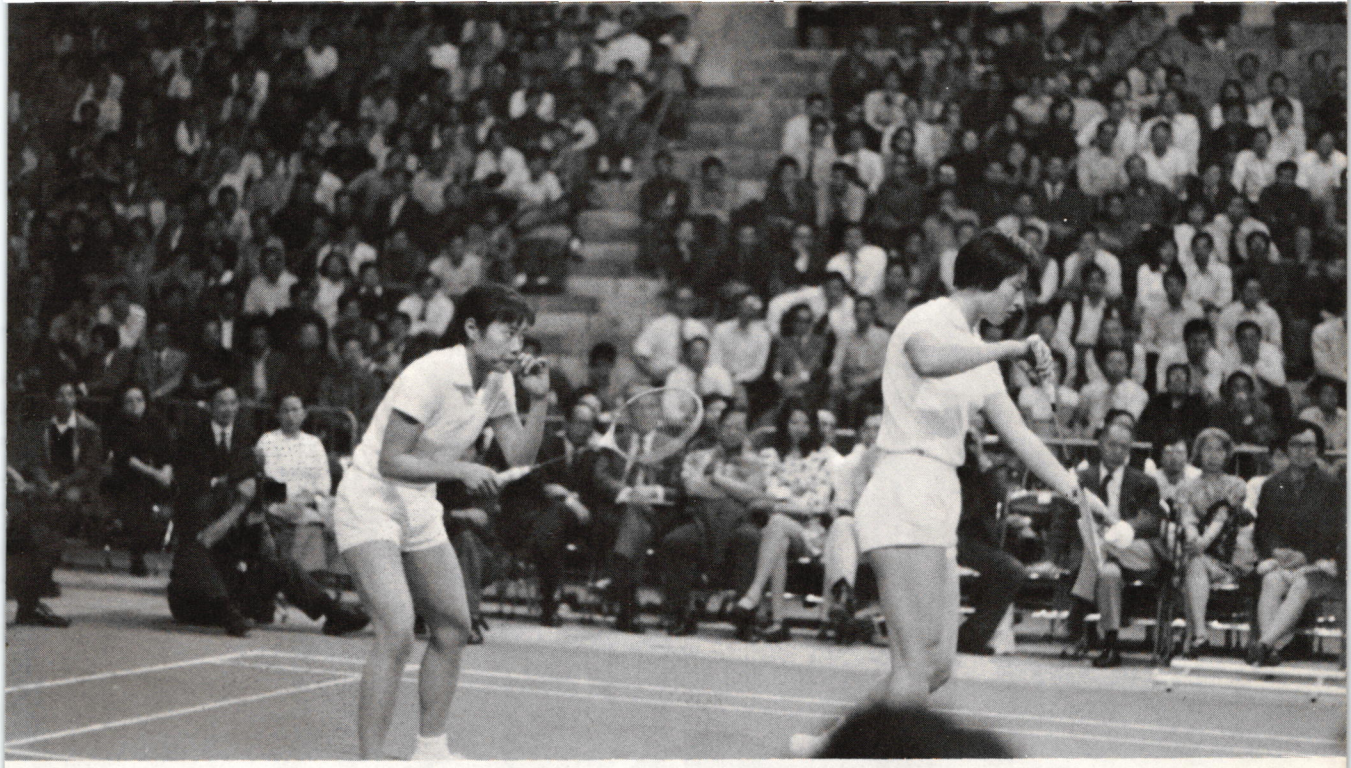






（上左）Anette Borjesson（スウェーデン），（上右）James Seluaraj（マレーシア），
（下左）Pornchai Sakuntaniyom，（下右）Bandid Jaiyen（タイ）





（上）陳玉娘，劉霞（中国），（下左）P．ピーターセン，F．デルフス（デンマーク）（下右）ウオルフガング・ボショウ（西ドイツ）



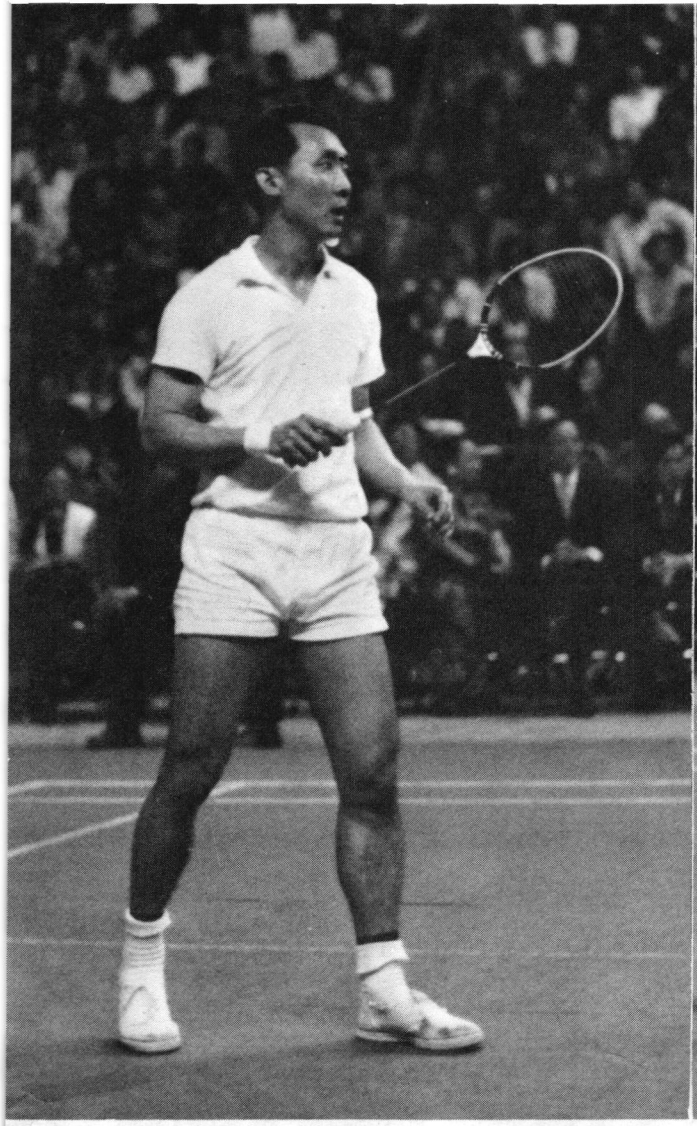


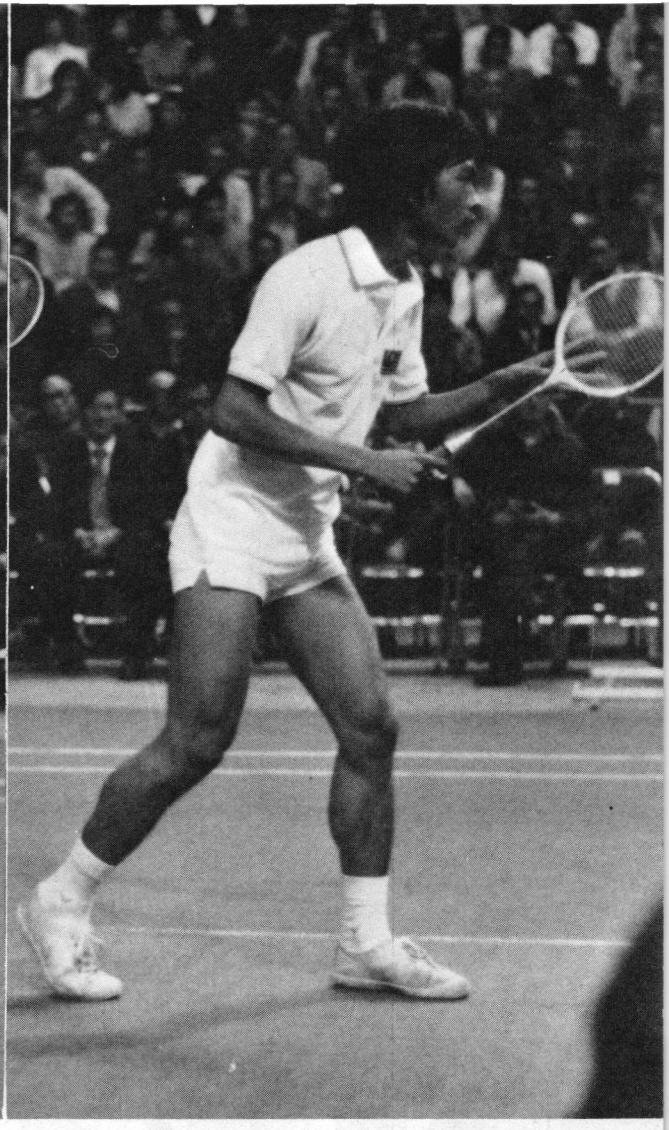


侯加昌(右), 方凱祥組(中国)

湯木博恵(右), 竹中悦子組







（上左）侯加昌（中国），（上右）Phua Ah Hwa（マレーシア），下は伊藤監督を中心に中国チームと





日本チーム，左から竹中（ヨネックス），古谷（日体大），伊藤監督，銭谷（中大），本間（トヨタ自工），湯木（カワサキ）

国際親善はまず私が率先して……，某国の美人選手と……





華やかな女子選手たち



スペリ台に並んだ日本チーム

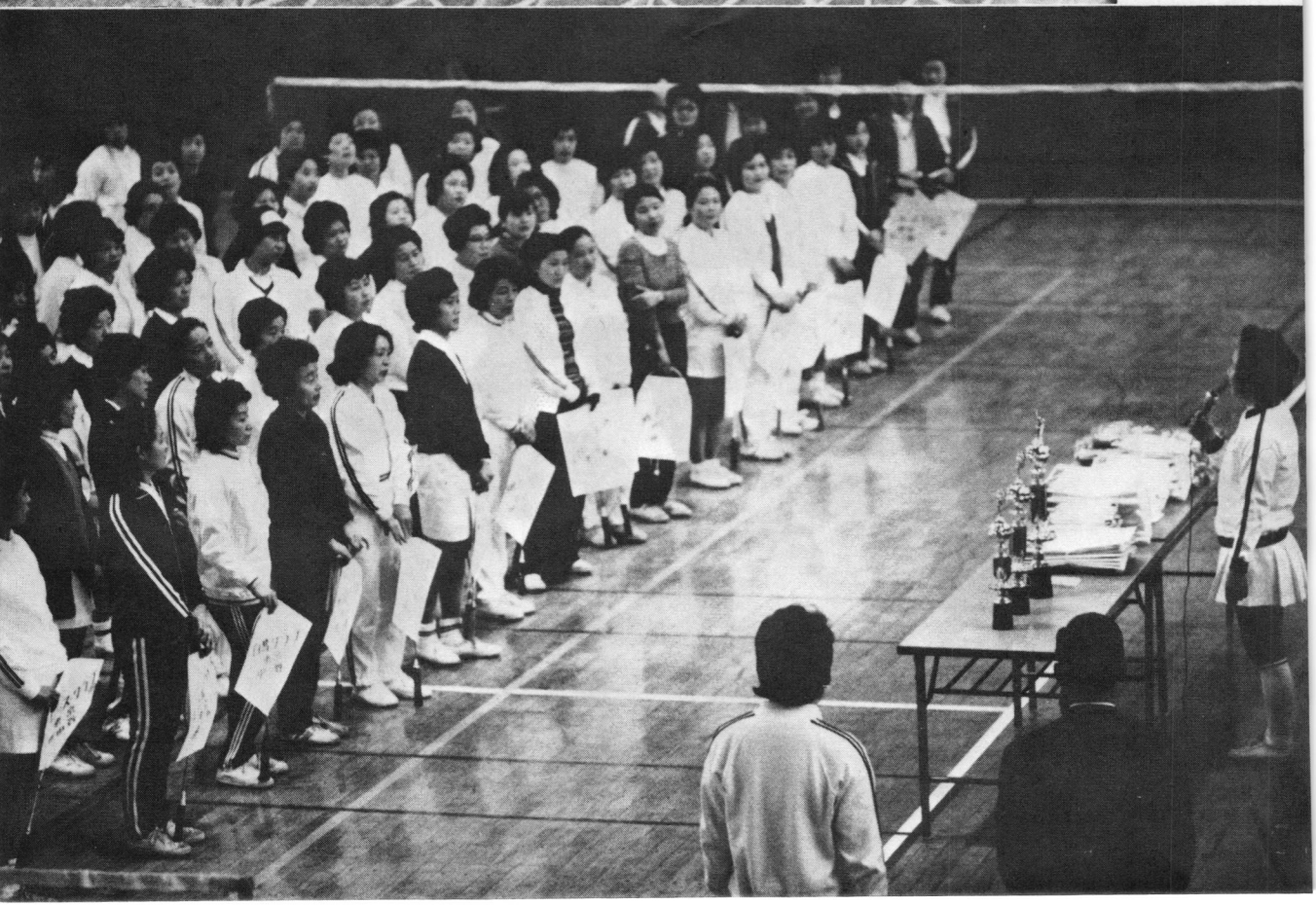
お国柄がでています



第一回関東家庭婦人大会写真集

関東地方のママさんを集めて、二月二十三日、二十四日の両日、本大会は盛大に開かれたが、その時の会場風景を特集しました。







プラカードを手に整列，ユニフォームもそろえて…全員で準備体操…



入念に体をほぐします，腹筋運動は美容にもよいのです。



いよいよ
試合開始!!



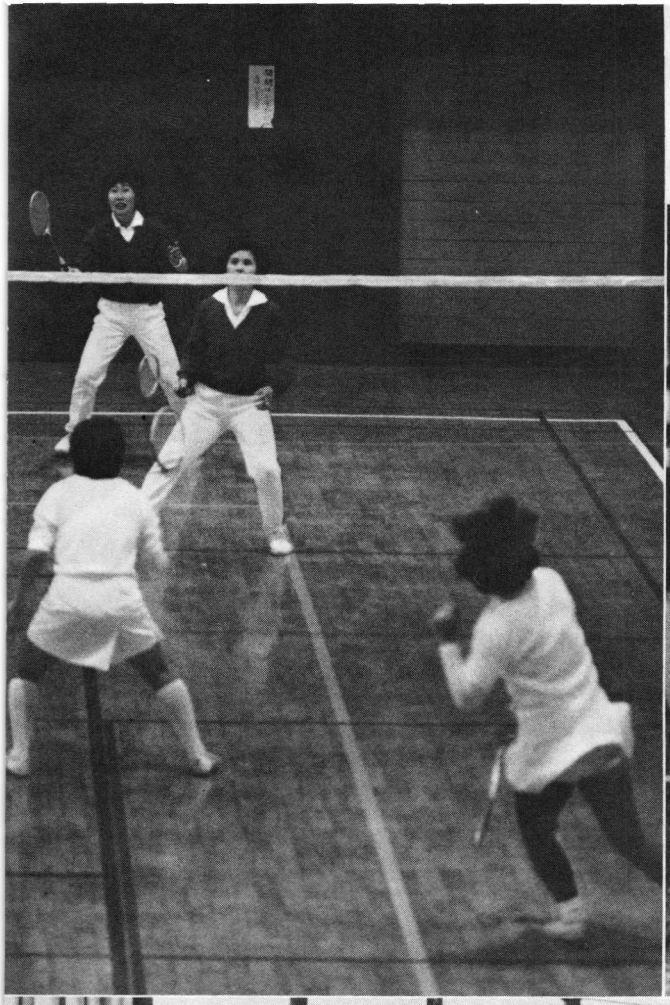


競技が始まった。

慎重にサーブをくりだす人,
ひたいに汗を浮かべてシャトルを追う人,
十分に練習を重ねたバックハンドを打つ人……



各コートで熱戦が



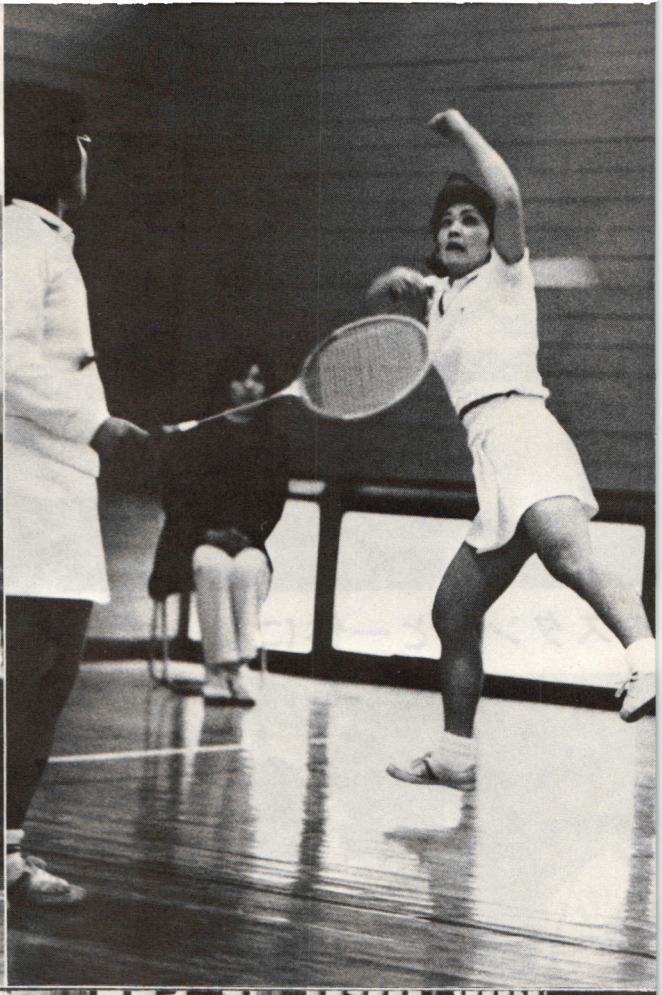




試合も進み，中盤へ

ジャンプしながらけんめいに返したり、ころげそうになりながらもシャトルを追う人。









スタンドと一体になって

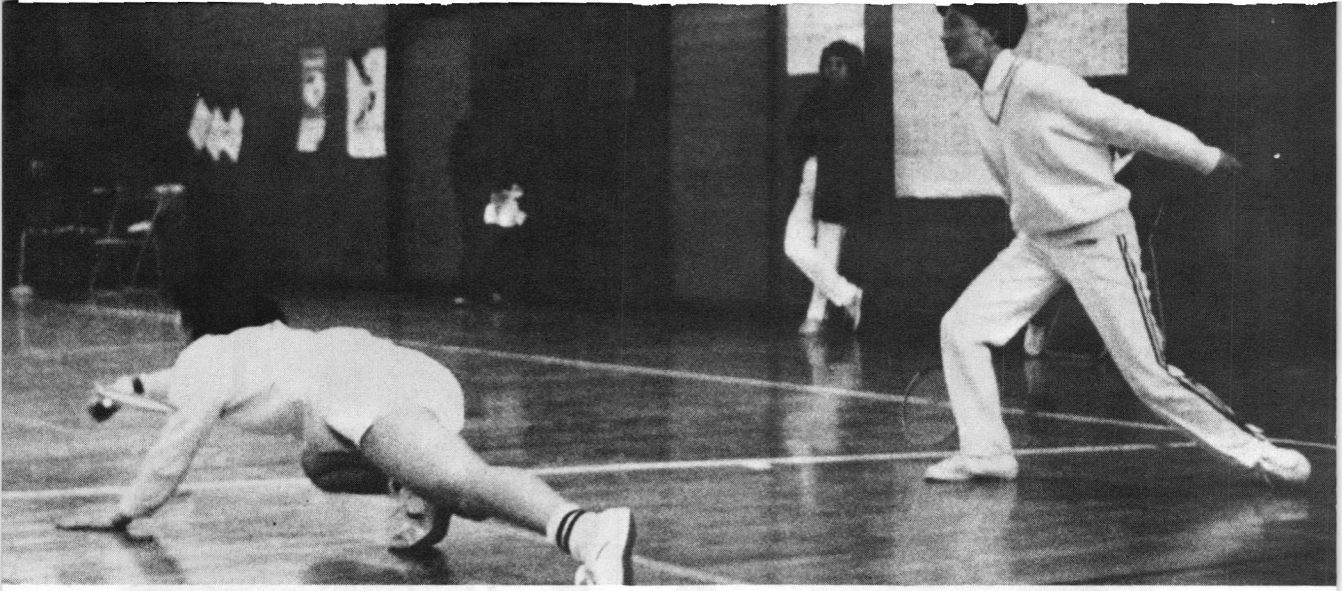
健闘をたたえあい，

他のチームに声援をおくり，

次の作戦を練る



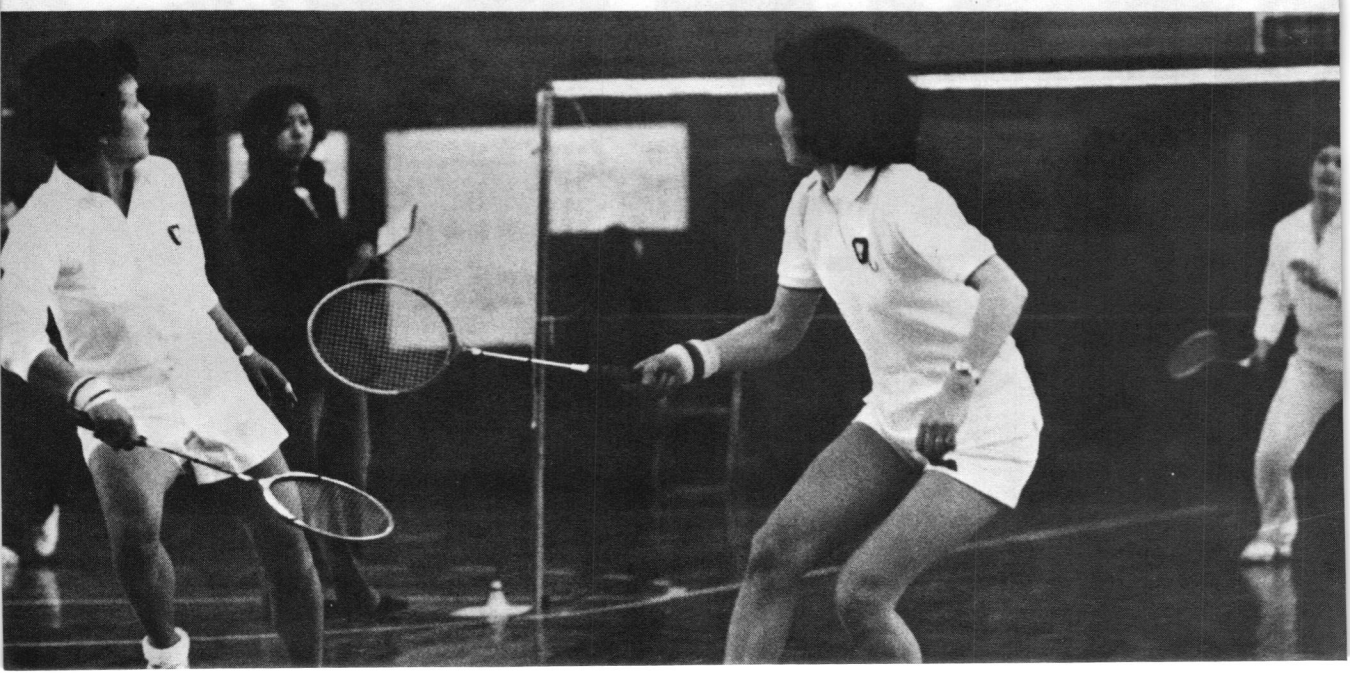




大会は大づめへ……ナイスキャッチ，転倒しながらも見事返す。



（上）鋭い視線でシャトルを追う，コンビネーションもいいようです（下）



闘いおわって

入賞してトロフィーを手にするチーム、応援してくれたわが子の手をひく人、立派な内容のある大会でした。









(上)優勝チーム＝東京＝のメンバー，笑顔がこぼれそう。(下)健闘よく準優勝チーム＝神奈川＝のメンバー，お疲れさま。



ユーバー杯防衛への抱負

●次期ユ杯監督　小飼栄一

次回のユーバー杯（世界女子選手権大会）の開催地はインドネシアのジャカルタに決定し、日本チームの監督は小飼栄一氏が任命された。

小飼氏は、三月八日、全英選手権大会へ、選手団とともに出発したが、そのユ杯への抱負を羽田空港ロビーで、日本協会理事の秦浩氏に聞いていただいた。

□　□

秦　まず、ユーバー杯日本チーム監督になられて、まず何から手がけようとお考えですか。

小飼　まずチームのスタッフを決定したいと思い、福井正康さんと中山紀子さんにコーチを依頼することから始めようと考えています。これは、ユ杯のチーム戦という意味から、スタッフの強化は絶対に必要です。

中山紀子さんには、その豊富な経験と、世界の女王の実績から、次代の選手たちを指導していただき、福井正康さんには、初めて日本がユ杯を獲得したときのコーチという経験を通して、初心にかえるという意味から、ユ杯防衛ではなく、新たな挑戦という気持でバックアップしていただきたい。

ですから、コーチのお二人に選手を引っ張ってもらい、私としてはコーチの人が活躍しやすい場をつくるというふうに考えています。

秦　来年の大会まであと十四か月ですが、その間に、どんなチームを作り上げていきたいとお考えですか。

小飼　選手のほうからいいますと、まず経験豊かで実績をもっている、湯木、相沢、竹中の三選手に中心になってもらいます。

しかし、この三選手だけではとてもユ杯防衛は不可能なわけで、相沢・竹中組につづく、第2、第3のダブルス、そして湯木につづくシングルスの選手が必要です。

とくに、シングルスの面で人材が不足していますので、この面の強化を最初にやりたいと考えていますが、具体的な施策については、福井、中山両コーチと相談していきたいと思っています。

秦　次の問題として、この湯木、相沢、竹中の三選手に次ぐ、新人が見当らない現在、どのようにして新人を育てていくのか、また、合宿などで新人を登用する計画はどうなっているかをうかがいたいのですが。

小飼　まず、最終的なチーム構成としては、従来の六名から、開催地がインドネシアのジャカルタということを考えて、八名にしたいと思っています。

そして、候補選手としては、十二名から十六名程度の選手をピックアップして、その中から強化していこうと思います。

しかし、新人に素質がないとかいうことは思っていません。ただカベを突き破れないでいるのだと思います。ですから、それぞれの選手がなぜカベを破れないでいるのか、その原因は何かを、いち早く、われわれが察知して手助けしてやるということが大切だと思います。

秦　その際、単にユ杯防衛だけを目的とするのではなく、もっと長期的な計画も立てられるわけでしょうか。

小飼　ええ、もちろん長期的展望に立ってやっていこうと思っていますが、ただ一つのフシといったものをもたないと、選手としても目標をはっきりもつことができないのではないかと思います。もし、個人個人の選手が長期計画の中で、ユ杯というものに焦点を合わせて力を出し切ることができるのなら、スタッフは必要ないわけで、まだそこまで個人個人ではできないので、われわれスタッフがその援助をしようということになるわけです。

この際のスタッフとは、両コーチと私、そして私を補佐してくれるマネージャー、さらにできればトレーナーの方にも一名はいっていただきたいと考えています。このトレーナーというのはただトレーニングを指導するというだけでなく、選手個人の悩みごとや相談にも応じられるような役割までもってもらいたいと思っています。

秦　次期開催地は、インドネシアのジャカルタに決まったわけですが、その際、相手は選手だけでなく、観衆、気候なども大変な重みをもってくるわけですが、この点についてどうお考えですか。

小飼　よく、その場合に精神力がどうのこうのと言われますが、私は、体力あっての精神力だと思っています。いくら強じんな精神力をもった人でも、体力がゼロになってしまったのでは動くこともできなくなってしまうわけです。ですから、まず体力を十分に身につけた選手をつくりたい。

ジャカルタの6月というのは平均気温が二十七度、体育館内ですと、観衆が一万人も入りますから三十五度を越えるといわれています。そういった条件の下で長時間試合をするというためには、精神力よりもまず体力が必要ということです。

そのためには、長期的に科学的に体力を養成していかなければいけないと思います。そこでどうしても欠かせないのが、先ほどお話ししたトレーナーです。ですから、このトレーナーというものを日本協会でももう少し重要視してほしいと思うわけです。

秦　それでは最後に、全英選手権とユ杯との関連はどのようにとらえていますか。この場合の全英選手権というのは今回だけでなく、次回も含まれますが。

小飼　やはり、相沢・竹中のダブルスと湯木のシングルスの優勝ということを狙っています。そして、この二つのタイトルを持ち帰ることによって、日本の若手選手たちに、湯木を倒せば、相沢・竹中に勝てば、自分にも世界チャンピオンになれるんだという目標を与えることになりますから、この二つのタイトルはどうしても獲得したいと思っています。

秦　どうもお忙しいところをありがとうございました。

第一回関東家庭婦人バドミントン大会に参加して

神奈川ユーバークラブ●本田智恵子

去る二月二十三日、二十四日の両日、東京杉並区大宮前体育館において、第一回関東家庭婦人バドミントン大会が盛大に開催された。

底冷えのするあいにくの天気であったが、館内はママさんたちのプレーと、応援の家族の熱気で汗ばむほど。

この大会に神奈川から参加して二位に入賞する健闘をみせたユーバークラブの本田智恵子さんから、試合に参加しての感想が寄せられてまいりましたのでここに掲載いたします。

バドミントンをする機会と場所と仲間を三ツ沢スポーツ会館に見出したのは今から五年前のことでした。うだる様に暑い日、台風の余波の吹き荒れている日、歳の暮の気忙しい日、それでもバドミントンがやりたくて、出かけてみれば、いるいる同じ仲間が。お互いに顔を見合せて「あなたも嫌いじゃないわねえ」。いつも揃う数人がチャンピオンになる夢などさらさらもてない年なれど、ただキャッキャと楽しくゲームをするだけではあきたらず、たとえわずかでもより上手になりたくて、自主的に練習する場所を求めてよそに出たのが今のクラブのそもそものはじまりと申せましょう。

ああやってみたら、こうしてみたら、とお互いに助言し皆で考え、練習を重ね、たまには他の人達と交流をと、他の体育館に遠征したところ、蛇の道はなんとやら、初対面ながらたちまち意気投合して以後同じグループとして一緒に練習がはじまりました。

形をなしてきたグループに何か名前をと考えていたところ、「ユーバー」という大それた名前を付けていただき、一同照れるやら張り切るやら。メンバーの構成は二十代から四十代まで、学校時代にクラブで活躍していた人、主婦になってからはじめた人、さまざまですが、三度の飯よりバドミントンが好きという一本の糸で結ばれ、言いたいことは言いながらも言ってはならないことは慎んで、いたってなごやかな楽しい仲間です。



そうこうしているうちに最初の試合の機会が訪れました。ペアを決めて練習したのが五回、いったいどのくらい戦えるものやら皆目見当もつきません。二十九チームも参加！千葉や埼玉など遠いところからもはせ参じるなんて、きっと皆さんベテラン揃いなのでしょう。

開会式。チームごとに青、緑、白など揃いのユニフォームに身を包み入場行進する人々の熱気に気押されて、一日目では消えたくない、など考えて来た意気はどこへやら、一勝できれば…と、いともつつましい願いに変更してしまいました。

幸い使いやすい体育館でほっとしましたが、第一戦の一ゲーム目はカウントが幾つで勝ったのか思い出すことができないほどのあがりようで、落ち着かなくては、とそればかり自分に言いきかせておりました。

第二戦からは意外と落ち着いて相手が見えるようになり、当初の念願だった一日目は勝ち残ることができました。案外やれる！準決勝ぐらいはいけるかも、とちょっとばかり欲も出て二日

目を迎えました。

力の差で負けるのはしかたがないけれど、ミスで自滅してはチームの皆さんに申しわけないし、悔いを千歳に残す、とサーブも返球も常になく慎重にやり、慎重にやることによって落ち着きを得、ねばることもでき、準決勝も勝つことができました。

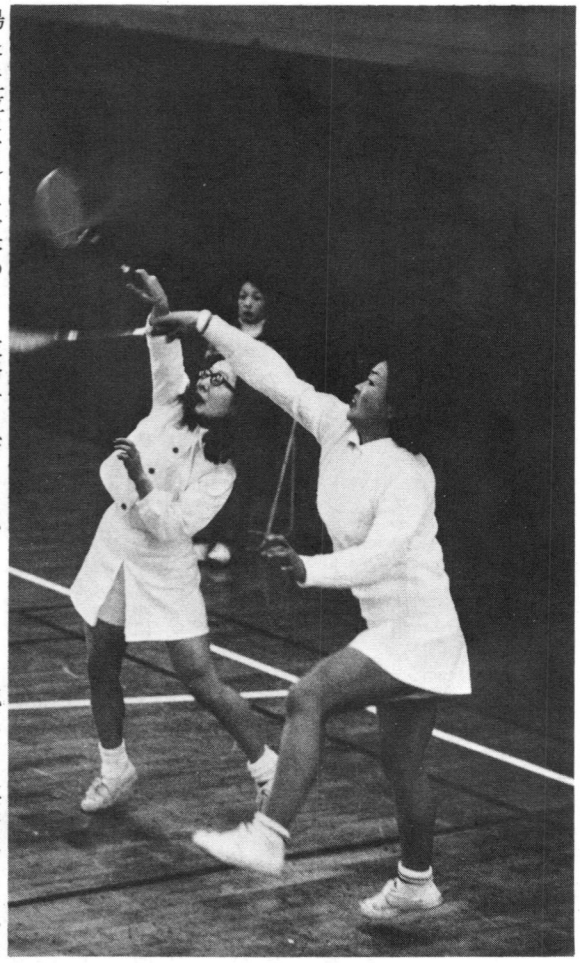
こう書くといかにも冷静そのものと言った感じですが、どうしてどうして、見ている方は常にハラハラ、応援に思わず黄色い声を張り上げて、審判から注意を頂戴するようなしまつ。



ゲームをする方も声援に元気づけられて、やる気十分、しかもリラックスした気持ちで試合を行ない、ネットにひっかけてしまった球に思わず「アー」と声をあげてしまったり、ともかくにぎやかなチームでした。

決勝は一勝二敗で全敗は免れましたが、力の差をまざまざと見せつけられました。クラブを結成してから初めての試合に出場して二位になれるなど夢のようで大喜び。これはチームワークのもたらした無欲の勝利ではなかったかと感慨無量です。

表彰式が終り着替もそこそこに表に出てみると、街はすでにたそがれて、はっと主婦業に立ち返った私達は自分の空腹も忘れて（十五分おきのゲームだったので昼食もゆっくり食べている暇がありませんでした）家で待っている子どものこと、夕食のことに思いを至し、「男の人ならここでまず祝盃、とかコーヒーでも飲んで、ということになるんでしょうにね」と、ぼやきながら、それでも足どりも軽く家路へと急ぎました。



このトーナメント大会を通じて感じたことは、バドミントンをする主婦の方々の若々しいことでした。今までスポーツとは比較的縁の遠い存在であった家庭の主婦が、バレーボールに続いてこんなに大勢バドミントンの分野にも進出してきたことは大変心強いことです。

さあ、私達もまた練習を始めましょう。練習日には、はずむ心で家事もいつもより能率よくテキパキと片づけて家を飛び出して行きます。体育館には気の合った楽しい仲間が待っていて、思いきり打ち、走り、叫び？汗を流す。これで若返らなかったら、かえって不思議なぐらいです。バドミントンを愛好する仲間が増えることは喜ばしいことですが、私達のクラブは、体育館の確保から運営まですべて自分達の力でやっておりますので、クラブ員数にも限りがあり、今のところこれ以上の増員はむずかしい状態です。スポーツを愛好する人々が、やりたい時にはいつでも利用できるような体育施設の充実を国や地方に望んでやみません。

バドミントン指導について(下)

＝その実践と提言＝

伊藤俊彦

のものを理解させるといった方法で行なっていったのであるが、より高度な技術を習得させる為の練習をもこれに挿入していった。

まず「基本的練習」から、

① ハイ・クリア対ハイ・クリア
② ドロップ対クリア
③ スマッシュ対クリア
④ ドライブ対ドライブ
⑤ ネット・ショット対ネット・ショット

などを行ない、これと同時に、最初はホーム・ポジションで構え、シャトルが飛来する方向を見てすばやく移動して打球し、打ち終ったら必ずホーム・ポジションに帰り、次の相手からのリターンに応じて移動するようにし、ストロークとフット・ワークを一体にした実戦を念頭においた方法を採用した。

ついで「応用的練習」として、

① クリア、ネット・ショットの組合わせ
② クリア、スマッシュ（ドロップ）、ネットショットの組合わせ
③ ドロップ、スマッシュの組合わせ

等を行なったのであるが、この段階にまで至ると、早く対外試合を、という声が出るようになりはしたものの、これまでの練習が一応バドミントン競技を行なうについての基礎であるところのシングルス・ゲームのための攻めであり守りであったので、いまだダブルス・ゲームの形態を整えるものではなかった。バドミントン競技をより広く、そしてより深くより多くの人達が楽しみ、味わうためにもダブルス・ゲームを理解させる必要があるし、実戦の場においても、またしかりである。

ダブルス・ゲームは、いうまでもなく二人で組を作って行なうものであるから、一人一人が上手なプレーをしても二人の呼吸がうまく合わないと、互いにパートナーが邪魔になり戦力が低下することがあるが、逆に二人の呼吸がピッタリ合うようにすることによって戦力を倍加することも出来る。パートナー同志の調和的連けい動作がダブルスの場合の重点である。

ダブルス・ゲームで使用される基本的なフォーメーションには、

(一) サイド・バイ・サイド型
(二) トップ・アンド・バック型
(三) ダイアゴナル型
(四) ローテーション型
(五) (一)と(二)を組合わせてローテートするイン・アンド・アウト型

ここで注意しなければならない事は、(二)の人達に対する点である。彼らは(一)の人達とは目的とするものが異なるがゆえに性急に仕上げる必要性は薄くもあり、より以上に楽しい雰囲気作りを心がけ、そして長期間にわたって体育館において汗を流してくれるような体制を整えていくことであるが、その為にも当該クラブの中に、そのリーダーを養成することの必要性を感じている。

続いて、バドミントン独特のストロークに「ラウンド・ザ・ヘッド・ストローク」がある。これは、体の左側で頭上または肩付近に飛んできたシャトルをバックハンドで打たずにフォアハンド・グリップのままフォアハンドの打面を使って体の左側で打つのであるが、初心者はもちろんのこと普通のプレーヤー、殊に女子はフォアハンド・ストロークに比較してバックハンド・ストロークが一般的に苦手であり、また特にオーバーヘッドのバックハンド・ストローク（ハイ・バック）は力が入りにくいので、その場合にこのストロークを行なうと、フォアハンドで打った場合とほとんど同じ力でクリアー、ドロップ、スマッシュ等のフライトを打ち出せて有効なストロークとなるので、本来はフォアでもバックでも同じように打てるようになるのが理想的ではあるが、ハイ・バックの打ちづらい人にはこのストロークを用いるように指導している。

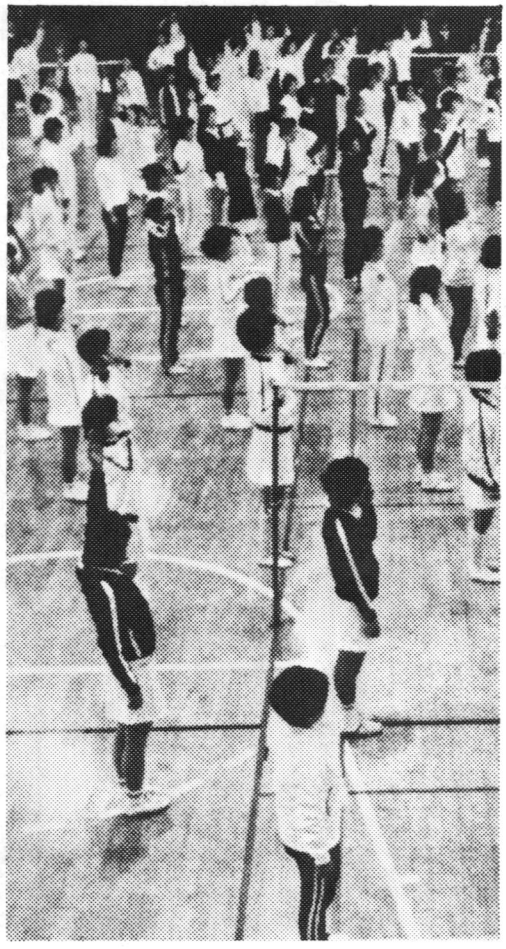
かように、バドミントンの最も基礎的なストロークが出来るようになると、アンダー・ハンド・ストロークにも、サイド・ハンド・ストロークにも比較的容易に取り組んでいけるようである。

一応基本的な練習を終えて次に、バドミントン競技規則であるとか、ゲームの進め方とかいよいよ彼らが最大の関心をもっている方向へとはいっていったのであるが、競技規則集は、幸いにも愛知県バドミントン協会にお世話いただき、これをテキストとしてひと通り解説をなし、ゲームに入ったのではあるが、当初はゲームを通じてルールを理解し、そしてバドミントンそ

が通常考えられ、それぞれに一長一短はあるが、私は㈤を採ることにした。

このフォーメーションは、サービスの時と攻撃している場合にはトップ・アンド・バック型で、そして防禦の場合にはサイド・バイ・サイド型の態勢をとる（型を変える時は、右回りでも左回りでもよい）のであるが、熟練してくると攻撃・防禦ともそれぞれに適したフォーメーションを使いわけて行なえるので非常に有利である反面、そうでないとフォーメーションを変える時期を失して混乱することがあるから、常にパートナー同志で十分な打合わせや練習を積んでおく必要がある。

当初は慣れないために、お互いの中間へ飛んだシャトルを譲り合ったり、リターンが浅く相手に絶好のスマッシュチャンスを与えてしまったり、ネットプレーを仕掛けておきながらすぐにネット際を離れて逆にヘアピンを打たれてミスをしたり、中途半端なサービスをしてプッシュやスマッシュで返されてフォルトをしたり等々の連続であった。それに、コートにはいったら踵を上げ、膝を柔軟にしてリズミカルに動くというバドミントン競技で要求される最も大切なことの一つを忘れているので、一歩否半歩あれば簡単に処理出来るものをわざわざ自分の体勢を苦しくし、バランスを崩して打ったり、シャトルに全く届かなかったりして墓穴を掘る、という私の予想通りのケースが展開されていった。これの打開の方策としては、常に基本を見つめ原点に立ち帰って忠実にそれらを考えながら何度もそして時間をかけて練習することで、これが唯一のものである。今後も、これの矯正に多くの時間を消費することになるであろう。そして、㈠の人達に対してはこれまで行なってきた事柄を基礎にして一つのことから、例えばオーバー・ヘッド・ストロークからクリアが、スマッシュが、そしてドロップが生まれるがごとく、多くのことが応用として出来るように、そのためには自分はいかにすべきか、また実際にどのように行動すべきかを自分の頭で考え体験するよう助言して見守りながらもその場に応じて適切な指導を心がけてきたのであるが、最近では時折バドミントン競技の原点に立ち帰って、足・腰の鍛練を主に行なってみたりして練習内容に変化をもたせるよう配慮している。また㈡の人達に対しては、㈠がある程度自主的に練習を行なえるようになったので練習時間の六割程度を彼らの本来的な目標の為に使用し、共にラケットを手にシャトルを追うようにしている。



要するにバドミントン競技というものは、相手に対して如何に自分の打ち易いシャトルを上げさせてそれを万全の体勢から打つかによって決る。従って、そのためにはいかに打ち、そして守るかを常に考えて練習する必要がある。そこにはシャトルを微妙に繰るコントロールが大切であろうし、少々のミスにも動じない強い精神力も要求されよう。また、自己のペースに引き入れる為にも十分に体調を整えることが必要である。自己の体力・技術を向上させるに適当な手段、例えていえば手首の強化としてコーラやビール等の空ビンに砂を入れて振ったり、腹筋強化の体操をしたり、各人の身近にその方法は幾らもあるし、また常に正しいフォームでのラケットの素振りであるとか、シャトルの飛来を想定してのフット・ワークであるとか数多いが、その最たるものは基本に則った練習を多く積み、ランニングを欠かさないことで、これに尽きる。バドミントンとは、ハードでメンタルな競技である。

ところで、われわれスポーツ指導員に対しては世界に通用する選手であるとか、競技一本槍の強い人を養成すること等を要求されているのではなく、気軽にスポーツに接することの出来る状態を作り出すための一つの手助をすることが、その課せられた職責で、そこからはより以上に強い選手になりたいという欲望が生まれてこようが、それは付随的なものである。しかしながら、名家庭に備えられている器具を善用して多くの人達が汗を流すようになり、その輪が広がってくると必然的に各地で各種のスポーツ交流が活発に行なわれるようになることも考えられるが、これは望ましい現象といえよう。そして、家庭内にスポーツ心を浸透させることがわれわれ指導員の最大かつ最終の目的である。

中国招請再び持ち越し

バドミントンの中国問題は再び持ち越しとなった。

国際バドミントン連盟（IBF）は三月二十二日、ロンドンで理事会を開き、中国の招請問題を協議したが、結論に達せず、七月二日にロンドンで行われる年次総会に、態度を任せることになった。

この問題は昨年のIBF総会にも日本などが提案したが否決されて終わっている。しかし、ロンドン三月二十三日発の共同電によると、今回、各国関係者の間では〝台湾追放、中国招請〟を支持する空気が昨年より一段と強まっている。

これについて消息筋は、日本の努力、中国自身の国際スポーツ界復帰の努力のほか、国際オリンピック委員会（IOC）が態度を軟化させたこと、などを大きな背景として指摘している。

アメリカでスーパースターコンテスト

優勝は無名選手に

もの好きなアメリカ人が考え出した〝スポーツ遊び〟の中で傑作は、スーパースターのコンテスト。要するに万能スポーツマン世界一を決める催しだが、賞金をかけてやるのだから、参加できるのは、プロに限られ、すなわち〝ショウ〟としての面白味のある所がミソ。

一九七四年度の決勝大会（というから、予選があるらしい）は二月末、フロリダ州ロトンダで、二日間にわたり行われた。出場者は十二人。みなさんも聞いたことがありそうな名前を紹介すると、スキーのカール・シュランツ（オーストリア＝札幌総合順位賞金のほかに、1点につき三百ドルもらえる仕組み。

いくら一芸に秀でたプロ選手でも、当然、ニガ手種目はあるわけで、ことしの〝世界一〟は何と十二人のうち一番、有名でない男、だった。

その人の名はカイル・ロート、23歳のプロ・サッカー選手。アメリカン・フットボールが国技の米国で、サッカーなどは、まだ、お呼びじゃない。ロート君もプロとは名ばかり、年収がわずか千四百ドル。世界一になって手にした賞金が五万三千四百ドル。

なお、有名プロの順位を念のためつけ加えると、シーグレンが2位、シュランツは最下位だった。

中国とインドネシアが遂に対戦

バンコクで5月に

ジャカルタ三月十九日発のロイター＝共同電によると、インドネシア政府スポークスマンは同日、政府が「五月にバンコクで開かれるバドミントン大会にインドネシアが出場して中国と対戦することを承認した」と明らかにした。

インドネシアと中国は一九六七年に国交を断絶、以来、公式の場での一切の交流がなかった。トマス杯保持国インドネシア、無冠の王者中国の〝勝負〟は世界バドミントン愛好者が久しく興味を持って待望していたところ。——以上、東京新聞から

ストリーキングと短いスコートの関係

ストリーキング（streaking）などという、妙な〝裸ランニング〟が流行している。線香花火のように、じき消えていく風俗にすぎないのだろうが、スポーツ的に考えて、裸で走る方が、ランニング・シャツやらパンツやらの、現行の〝ユニホーム〟姿で走るより、記録がよくなるものだろうか。

こんなことを持ち出したのはほかでもない、陸上では知らぬが、水泳では〝ヌードの功罪〟について、すでに一年前、大真面目に論じられているからだ。素人が考えても、より速く泳ぐには、水の抵抗を少くすればいい、ということはわかる。

そこで、水に直接、触れる毛はすべてない方がいい、とばかりに、頭は丸坊主、ミスター・ジャイアンツも驚くばかりの胸毛、スネ毛から、指の毛まで、すべて剃り落す実験が、かつて西独で試みられたことがある。そして、ミュンヘン五輪だったかに、丸坊主の選手が何人か登場していた。

この考えをもっと押し進めると、水泳パンツも邪魔だ、となるらしい。裸を実験したのも、やはり西独。ナショナル・チームの選手五人を含む八人の泳者を集めて泳がせた。そうすると百メートルバタフライで、二人の選手が、いい結果を出した、というのである。

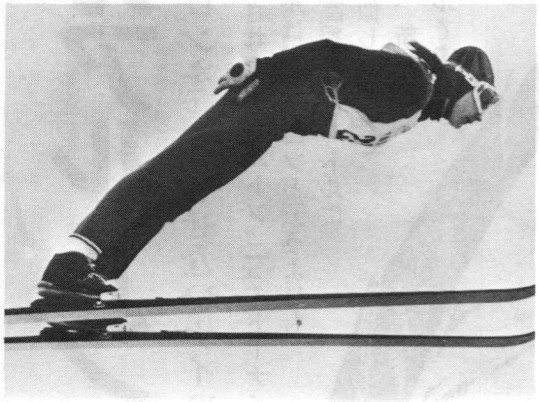
すなわち、一人はパンツ付きで泳いだとき1分4秒8、外したとき1分3秒6。もう一人は1分5秒6が1分4秒4に縮ま

った。が、残念ながら、このお二人さん、バタフライ種目に関する限り、女子なみ。いや日本の青木まゆみ嬢より悪い。この程度の水準の選手なら、技術も体力も改良の余地が大幅にあるから、裸にならなくとも、1秒や2秒は短縮できるのではないか。

〝より速く〟が不可欠要素の一つである、わがバドミントン、いわゆるスコート式より、短パン姿の方が、空気抵抗は少いように思えるのだが、学者の見解はどうだろうか。いや、スコートも、短かければ短いほど、空気抵抗は少ないはず。ただ、その度合いに比例して、おえら方の〝道徳的抵抗〟は強くなるだろうが——。

戦後強くなったものは…

ひところ「戦後、強くなったものは女と靴下」などという言葉がはやった。靴下は、最近の報告によると、再び弱くなりつつあるらしいが、女は疑いもなく、強くなる一方である。スポーツの世界では、それが「男にしか許されなかった競技を、女も試みる」かたちで、端的に現われている。



ノルウェーで開かれていたホルメンコーレン・スキー大会に史上初めて女性としての参加を認められたアニタ・ボルド選手（17才）の90メートル級ジャンプ

ヨーロッパではサッカーへの女子の進出が盛んで、英国ではついに女子だけ別組織までできたし、すでに〝プロ〟もある、という。ウーマン・リブの本家米国では〝権利〟としてのスポーツ闘争もしばしば耳にする。女性で初めて競馬の騎手になったとか、プロ野球の審判になった人の話を、読者の皆さんも読んだ記憶があるだろう。

最近では「非常に才能ある十歳の娘が、女であるとの理由から、リトル・リーグ（世界的規模のちびっこ野球）のメンバーになれないのは不当」と、法廷闘争までした母親がいた。

昨年、テニス界の女王キング夫人が元世界チャンピオンのリッグスおじさんと〝両性対決〟を演じ軽く勝った話も耳新しい。テニスは技術・心理かけひきが大きくものをいう競技だが、あえていえば「30歳の女性は、55歳の男性より強い」ことが、この一戦で証明されたことになる。

わが日本国においては、サッカーが昨年登場、日本リーグのナイター前座で、大観衆の前に妙技を公開した。と思ったら、伊勢丹にはアイスホッケー・チームが誕生〝本場〟カナダの在日女子チームと対戦し、みごとにやっつけた。

最近、各新聞が一斉に写真付きで取り上げたものに、スキーのジャンパーの話がある。女もジャンプをする、ということ自体、日本人では耳新しいニュースだが、欧米では割に古くから勇敢な女性がいたらしい。

今回、話題となったヒロインは十七歳の高校生アニタ・ボルト嬢。ノルウェーはトロントハイムの出身だ。なにしろ五歳の時から飛び始め、もちろん試合は男性（少年）相手。これまでとったトロフィ、カップは大小三百五十にも上る。

三月六日、同国フルベルクで行われた国際競技会で84㍍を飛び（非公式ながら、これが女性の史上最長不倒距離）、ついでホルメンコーレン大会に参加した。

ホルメンコーレン大会はノルディック種目のスキーでは、世界で最も古い歴史と権威を持っている。女性ジャンパーが出場を許されたのは、もちろん、史上初めて。これが話題となったわけだが、さすがにアガってしまい90㍍級シャンツェで68㍍、64㍍50しか飛べずに終わった。

「このすばらしいスポーツに女の子がどんどん挑んでほしい。私の登場が、その一つのきっかけになれば…」とアニタ嬢はいっている。

女性がジャンプの歴史に名を記した最初は一八七八年。スキー発祥の地といわれるノルウェーのモルゲダールでグントヒルト・ビャーラント嬢が、なんと6㍍を飛んだ。

一九一〇年にはグレフィン・ランベルク嬢（オーストリア）が24㍍、一九二〇年にはボルシュタット・エッゲン嬢（ノルウェー）が26㍍、一九三一年にはヨハンナ・コルシュタット嬢（ノルウェー）が40㍍をマーク、次々に記録を書き換えた。

コルシュタット嬢は七年後の三八年には、自己の記録を69㍍50に伸ばし、アニタが登場するまで、これが世界記録となっていた。

さて、再びわが日本。やっぱり女性ジャンパーはいた。北海道帯広大正小学校六年の長岡こづえちゃん。北海道のジャンプ・スポーツ少年団交流大会に出場、20㍍級で1本目、9・5㍍を飛んだ。この時、転倒して雪にまみれた帽子を脱いだため、三つ編みのお下げが現われ、「あれっ、女の子もいるよ」

ギリシア時代の古代オリンピックでは、女子は選手としての参加はもちろん、見物も許されなかった。世の中、ずい分、変わったものである。

カアルトン ニュートーナメント は水鳥？

ナイロンを感じさせないナイロン。

新開発された、カアルトン〝ニュートーナメント〟シャトルは、ナイロンと云うよりも英国製高級水鳥シャトルに最も類似した性能を備えた、新しいシャトルです。



ニュートーナメントの特徴

●打球音が変った●ラケットから離れる感じが変った●ネットでのターンノーバ（回転）が変った●スピン●シャトルに対する視覚度（よく見える）がよくなった●飛翔のときの一貫した安定性が増加された。

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661（代）

マスコミのとらえたバドミントン

弱点分析し自主練習

中国総体三連勝へ・境港工

放課後の体育館―愛用のラケットを持ったトレパン姿の部員が一人、また一人…。手際よくネットが張られ、練習道具がそろう。「準備OK、さあ、やるゾ！」―元気な掛け声がひんやりした館内を走ると一日の練習が始まる。

県総体、中国総体でそれぞれ二連勝という輝かしい戦績を残すバドミントン部は山陰両県はもちろん中国地区でもズバ抜けた強さ。「中国総体三連勝、全国総体ベスト8入り」を来シーズンの目標に掲げ練習に打ち込む部員の顔には、自信と闘志があふれている。

部員は、秋のシーズンを最後に一線を退いた三年生を除くと八人。さる十一月二十二、二十三の両日、倉吉市で開かれた鳥取県高校新人戦で、新チームはさっそく団体、複、個人の三タイトルを独占した。

「専任指導者のいないのがチョッピリさみしい…」と部員がいうように日常の練習は、キャプテンを中心とした自主練習。毎週月曜日は〝ディスカッションの日〟。いっさいの練習を休んで部会を開き、まず先週の反省、そして今週の練習スケジュールをみんなで立てる。オフシーズンの練習は、基礎体力の養成を最大ポイントに▽柔軟体操▽ランニング▽基礎打ち―の三つが柱。

練習時間は午後三時半から六時まで。体育館に勢ぞろいした部員は、学校周辺を約五㌔のランニング、休む間もなく体育館で柔軟体操。腹筋、腕立て伏せ…と続くハードトレーニングで全員、汗びっしょり。そしてダッシュの連続、ノック、基礎打ちと密度の濃い練習が続く。

「他校のチームに比べ平均身長が十㌢近くも低いハンディキャップを克服し、勝つためには、持久力と敏しょう性を養い、スピードで勝負するしか手がない」と安田守夫キャプテン（二年）。自分たちの弱点を分析し、具体的な練習目標を持って計画的に練習を積み重ねるあたりに実力ナンバー1の秘密があるよう。

バドミントン部はことしで結成十年。顧問の本池通昌教諭は、歴史の浅いクラブが短時間に〝中国一〟の実力をつけた原因について「先輩の適切な技術指導、部員の不断の努力を研究、それに境一中、二中にバドミントン部があることによる底辺の広さ」を指摘する。が、一方では悩みも多い。部費は年間わずか四万七千円。シャトルを部員が金を出し合い買っているほか、県外試合に出かけると一人二万円以上の個人負担をしなければならない。「昨年、全国高校新人戦への出場権を得ながら金銭的な理由で参加を見送ったことがある。生徒たちに安心してクラブ活動をさせてやる手立てはないものか…」―本池教諭は貧弱なクラブ財政に顔をくもらす。

（山陰中央新報　2・2）

幅広い普及めざし

＝長崎県協会＝

ママさんら汗流す

県バドミントン協会は、底辺拡大と競技の普及を目指し、日曜日を利用して長崎市内のママさんクラブの指導者、審判員の講習会を開いている。

参加しているのは、サンクラブをはじめ約十クラブから三十五人のママさん。年齢も二十五歳から四十二、三歳までと幅広い。指導には協会の幹部役員や、協会登録の現役選手が当たり、毎日曜日の午前十時からおよそ三時間、市内緑が丘町の緑が丘中体育館で懸命に汗を流す。

練習は、クリヤーをはじめ、ドロップショット、ドライブ、スマッシュの基本フライトからみっちりスタート。その後、現役選手らの模範試合などで審判の練習、またママさん自らも互いにペアを組み、即席ダブルスで試合に熱中、審判も自分たちでやっている。

参加者は各クラブの責任者や指導者とあってフライトの練習のほか、クラブの練習体制、コートの使用法、運営などに協会役員らが適切なアドバイス。

わが国でバドミントンの発祥地は長崎といわれ、競技人口も年々増加。また良い試合は長崎でとの考え方から、昨年には第一回日中親善大会を誘致、成功させた。こうした盛り上がりは協会と現場の指導者の密接なパイプが不可欠だが、同協会は幸い指導者が熱心に協力、その結果、九州では全クラスともトップレベルに躍進。

長崎国体を境に、県体協は選手中心の〝エリート〟主義から、県民一人々々が参加する県民総スポーツを推進。つまり逸材を得るには、下地の底辺拡大が一番との考え。このため、各スポーツ団体は、長期計画で拡大、普及に全力投球している。同協会の場合もこの基本姿勢に沿い、着々と計画、実行に移しており、今後の成長が期待されている。

（長崎新聞　2・22）

協会通信

広島県協会

第5回県会長杯バドミントン大会は、2月24日日本鋼管福山旭丘体育館で行なわれた。

参加者は、一般男子ダブルス16組、同シングルス34名、高校男子ダブルス7組、同シングルス14名、一般女子ダブルス3組、同シングルス4名、高校女子ダブルス17組、同シングルス26名、壮年ダブルス4組、同シングルス4名と、あまり多くなかったが、内容的に充実し、熱気に満ちていた。結果は次のとおり。

▽一般男子ダブルス
1位＝柏木、杉之原（友）、2位＝前田・田上（NKK）、3位＝山岡・安達（三菱）、4位＝占部・大土井（三菱）

▽一般男子シングルス
1位＝松本（広大）、2位＝山岡（三菱）、3位＝福永（広大）、4位＝杉之原（友）

▽高校男子ダブルス
1位＝立田・黒崎（葦陽）、2位＝村上・又川（近大）、3位＝渡辺・藤井（葦陽）、4位＝原田・門田（近大）

▽高校男子シングルス
1位＝又川（近大）、2位＝渡辺（葦陽）、3位＝立田（葦陽）、4位＝村上（近大）

▽一般女子ダブルス
1位＝広田・沖野（広大）、2位＝岩崎・野坂（広大）、3位＝藤原・角脇（NKK）

▽一般女子シングルス
1位＝広田（広大）、2位＝藤原（NKK）、3位＝野坂（広大）、4位＝岩崎（広大）

▽高校女子ダブルス
1位＝小畑・光成（葦陽）、2位＝大倉・山崎（広女）、3位＝吉川・西元（鈴）、4位＝田上・大塚（市高）

▽高校女子シングルス
1位＝小畑（葦陽）、2位＝吉川（鈴）、3位＝高橋（葦陽）、4位＝大倉（広女）

▽壮年ダブルス
1位＝曾根・兼広（NKK）、2位＝千代田・脇田（NKK）、3位＝大道・上田（日立）

▽壮年シングルス
1位＝大道（日立）、2位＝兼広（三原）

岡山県協会

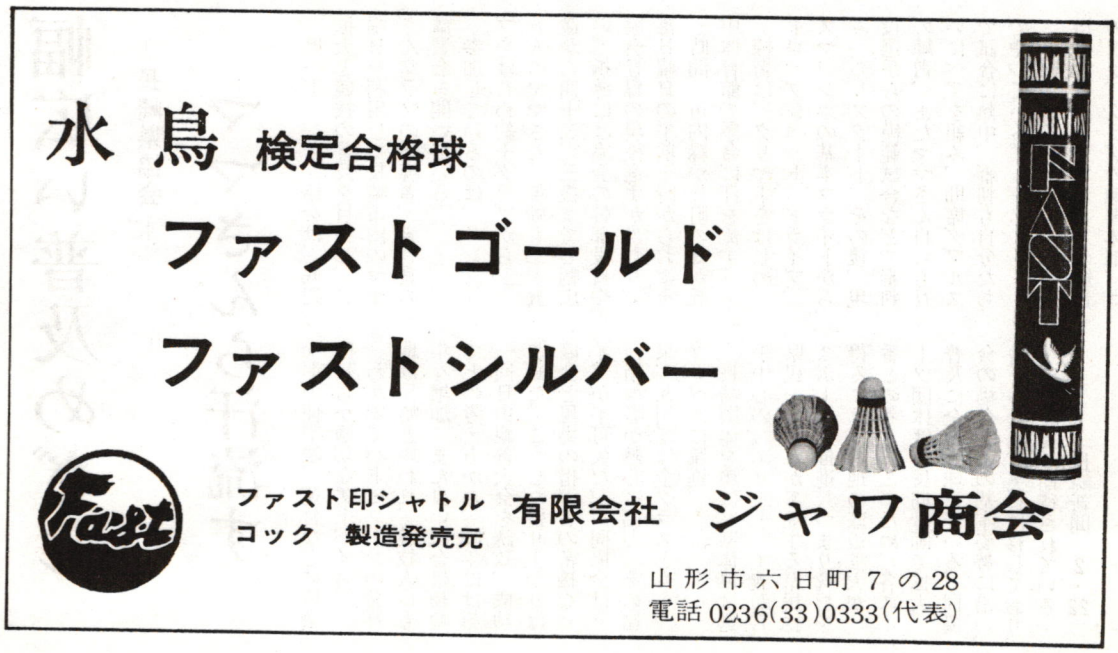
昭和48年度、近府県高校新人選抜優勝大会は、2月17日、山陽女子高校体育館で、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会の主催、岡山県協会の主管、山陽新聞社の後援によって盛大に開催された。

この大会は、岡山県協会が隣接県の優秀選手を集めて中四国高校界のレベルアップに一役買おうというもので、今回が最初の試み。今回は、岡山、広島、香川三県から男子九、女子八校およそ七十人が参加したが、将来は大阪、京都など全国レベルの高い近畿地区からの参加を計画している。

試合は個人単複を争ったが、各県の新人戦（一、二年）のベスト4にはいったトップクラスばかりで、白熱した試合がくり広げられた。

▽男子ダブルス
1位＝別枝㈠・別枝㈡（香川・坂出工業）、2位＝亀谷・峯（香川・高松商）、3位＝村田・角田（岡山・総社高）、同3位＝橋本・武者（岡山・倉敷青陵）

▽女子ダブルス
1位＝小寺・日原（岡山・山陽女子）、2位＝牛田・渡辺（香川・善通寺第一）、3位＝川田・片山（香川・善通寺第一）、同3位



＝国定・林（岡山・山陽女子）
▽男子シングルス
1位＝亀谷（香川・高松商）、2位＝峯（香川・高松商）、3位＝別枝㈠（香川・坂出工業）、同3位＝田中（岡山・倉敷工業）
▽女子シングルス
1位＝原田（岡山・山陽女子）、2位＝小寺（岡山・山陽女子）、3位＝日原（岡山・山陽女子）、同3位＝牛田（香川・善通寺第一）

また、本県の高校新人大会は2月9日、10日の両日、津山工業高校体育館などで行なわれたが、男子団体13校、女子団体22校、男子ダブルス59組、男子シングルス127名、女子シングルス237名、女子ダブルス120組という、非常に多数の参加をえて盛会であった。
▽男子団体
1位＝総社、2位＝倉工、3位＝青陵、同3位＝水工
▽女子団体
1位＝山陽、2位＝天城、3位＝瀬戸、同3位＝青陵
▽男子ダブルス
1位＝橋本・武者（青陵）、2位＝村田・角田（総社）、3位＝藤原・片岡（倉工）、同3位＝梶田・平川（天城）
▽男子シングルス
1位＝田中（倉工）、2位＝橋本（青陵）、3位＝藤原（倉工）、同3位＝平田（倉工）
▽女子ダブルス
1位＝小寺・日原（山陽）、2位＝国定・林（山陽）、3位＝平松・小野（青陵）、同3位＝難波・小郷（青陵）

群馬県協会

昭和48年度県ランキングが次のとおり決定した。
▽男子シングルス
1位＝今井（渋女教）、2位＝桐生（日体大）、3位＝栗原（日体大）、4位＝井上（日本ルフト）、5位＝亀里（桐市商）
▽男子ダブルス
1位＝今井（渋女教）・桐生（日体大）、2位＝栗原（日体大）・千明（若羽根会）、3位＝井上（日本ルフト）・稲村（オヲツヤ）、4位＝藍原・周田（若羽根会）、5位＝岩崎・亀里（桐市商）
▽女子シングルス
1位＝佐藤（群大）、2位＝小野（群大）、3位＝神山（群大）、4位＝加賀美（渋女）、5位＝関口（渋女）
▽女子ダブルス
1位＝小野・佐藤（群大）、2位＝野口（寿製作所）・石川（東京三洋）、3位＝津久井・池田（渋女）、4位＝石田・長沼（伊市女）、5位＝加賀美・関口（渋女）

神奈川県協会

昭和48年度県総合選手権大会ダブルスの部は、3月17日、県立体育センターで、神奈川新聞社後援のもとで行なわれた。

3種目とも予想どおりの結果に終わった。各ペアは他に比べ圧倒的な強さをみせ、内容的にはいま一つの盛り上がりを欠いたのは否めない。

男子ダブルスでは、小島・宮川組が国体3連勝の実力をいかんなく発揮し、圧勝した。女子ダブルスも杉田・横尾組が楽勝、決勝までよく勝ち進んだ金子・岡本組を寄せつけなかった。

混合ダブルスも、鈴木・横尾組がよく敢闘したが、杉田夫妻のイキの合ったコンビネーション、深い読みの前に破れ去った。
▽男子ダブルス
1位＝小島・宮川（ラケットシヨップ元町）、2位＝杉田（立野高教諭）・瀬戸（県人会）、3位＝山崎・阿部（関東自工）、同3位＝笠井・高橋（関東自工）
▽女子ダブルス
1位＝杉田（日本コロムビア）・横尾（県庁）、2位＝金子（洋光台第一中教諭）・岡本（横須賀市教育委）、3位＝紅野・佐藤（日立戸塚）、同3位＝津久井・寺本（新日鉄）
▽混合ダブルス
1位＝杉田（立野高教諭）。杉田（日本コロムビア）、2位＝鈴木（三菱重工横浜）・横尾（県庁）、3位＝笠井（関東自工）・山本（日立戸塚）、同3位＝京屋（日本石油）・田口（日立戸塚）

愛知県協会

第18回中日杯争奪県実業団選手権大会は、中日新聞の後援をえて、2月10日、11日、17日の三日間、愛知県体育館ほかで開催された。

結果は次のとおり。
▽男子1部
1位＝トヨタ自工A、2位＝三菱重工A、3位＝名古屋鉄道、4位＝日本電装、5位＝豊田織機A、6位＝名古屋市役所A
▽男子2部
1位＝新日鉄A、2位＝豊田バドミントン同好会、3位＝豊田工機A、4位＝電々東海A、5位＝新日鉄B、6位＝トヨタ自販
▽男子3部
1位＝三菱電機名古屋A、2位＝三菱重工岩塚、3位＝ブラザー工業、4位＝住友化学A、5位＝豊田工機B、6位＝中部電力
（以下1位のみ記載）
▽男子4部＝豊田織機B
▽男子5部＝大同製鋼A
▽男子6部＝桜山クラブ
▽男子7部＝南山クラブ
▽男子8部＝日本電装西尾
▽男子9部＝試作同好会
▽男子10部＝名古屋観光ホテル
▽女子1部
1位＝トヨタ自工、2位＝日本電装、3位＝名古屋電道、4位＝豊田織機、5位＝豊田通商、6位＝新日鉄
▽女子2部
1位＝名古屋市役所、2位＝豊田工機、3位＝教室クラブA、4位＝トヨタ自販、5位＝YMCA、6位＝川西倉庫
▽女子3部
1位＝桜山クラブ、2位＝教室クラブB、3位＝大同製鋼、4位＝愛教大教員、5位＝中部電力、6位＝名古屋税関
▽女子4部A
1位＝電々東海、2位＝東海銀行、3位＝国税局、4位＝三菱電機名古屋
▽女子4部B
1位＝日本電装西尾、2位＝豊田バドミントン同好会、3位＝三菱重工岩塚、4位＝豊田合成



編集室から

■定価改訂のお願い

前号でもお知らせいたしましたが、昨年来出版事情はきわめて深刻になっております。本誌も例外ではなく、本文用紙の高騰、製版等印刷諸経費の高騰により、一部百三十円の定価では刊行をつづけることが不可能な事態となりました。編集部といたしましては、印刷関係との折衝、拡販によるコストダウンによって読者の方々にはご迷惑をおかけしないよう努力してまいりましたが、遂に次のとおり値上げさせていただかざるをえなくなりました。

一部定価　二百二十円
年間予約　二千四百円

年間予約に関しては、第52号（本号）以後（本号を含む）のお申込みは、すべて二千四百円となりますが、第51号以前からの継続お申込みは、4月20日消印有効にて、千五百円で受け付けることといたします。

諸物価の高騰のおり、さらに読者の皆様にご迷惑をおかけすることは甚だ心苦しいのでありますが、事情ご賢察のうえご了承ご支持くださいますようお願いいたします。編集部では、内容の充実、刊行の正常化のため、さらに努力する所存ですので、よろしくご指導下さいますよう重ねてお願いいたします。

バドミントン界編集部

○…全英選手権大会の速報、第一回関東家庭婦人大会グラフを中心にお届けいたします。

小島一平選手の連載も好調ですので、じっくりお楽しみください。また、待望久しい中山紀子さんの自伝が始まりました。今まで歩んできた道をふり返って、さらに今後のユメを語っていただこうと考えています。

○…50号でお願いいたしましたアンケートに対し、多くの皆様からご協力をいただきましたので、集計がおわりしだい、本誌誌上にて発表いたします。

○…人民中国から中国のバドミントンを転載いたしましたが、こういった感じのテーマで、わが国の場合もご執筆可能な方がいらっしゃいましたら、編集部までご連絡ください。

○…今回の全英選手権大会に写真の山田真市さんが同行いたしました。各地の大会のもよう、またそのときどきのスナップなど数多く撮影してこられましたので、近いうちに「全英選手権写真集」を特集いたします。

会場の照明が不足で、少し心配ということですが、そこはプロの腕前、心配はないでしょう。いままで以上の特集を、と準備しておりますのでご期待を。

○…現在、各地でインターハイの地区予選が開催されていますが、全国大会出場権を得られたチームの監督・コーチの方々へお願いいたします。

予選への準備・苦労、本大会への抱負などお知らせください。選手の感想でもけっこうです。

○…最近、転居先不明ということで返送されてくる本誌が急増しています。

住所を変更された方は、早目に住所変更のご通知をお願いいたします。この際、必ず新旧の両方を明記くださるようお願いいたします。

また、本誌未着の方はハガキで編集部あてお知らせください。将来は会員番号制をとり入れてカードシステムにして事務の迅速化を、と考えていますが、しばらくは現状で……ということになりそうです。

○…次号は、読者の方々からご要望の多い、スナップ的な写真を中心に組んでみます。また将来の日本を支える選手たちのプレーぶりも、と考えています。

なお、連載はもちろん休みませんのでご期待ください。

最後に、いつもご協力くださる各県協会の方々にこの欄をかりてお礼申し上げます。（S）

【バドミントン界】第52号
昭和49年1月25日　印刷
昭和49年2月1日　発行
編集兼発行人　秦　浩
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九
明宏印刷株式会社
定価　一部　二百二十円

©無断転載を禁ず

■バックナンバーお申込みの皆様へ

本誌第50号、51号で、バックナンバーのご案内をいたしましたところ、私どもの予想をはるかに上回るご注文をいただき、在庫の少ないものは、またたくまに売り切れてしまい、多くの方々のご希望におこたえすることができず、申し訳ありませんでした。

多少汚れていてもいいから、コピーでもいいから、という読者の方々が多いため、もう一度在庫・資料の整理をいたしまして、後日お知らせいたしますので、しばらくお待ちください。

また、バックナンバーを申し込んだが、半分しか届かない、というお問合せをいくつかいただいておりますが、部数の多い場合は、何通かに分けて発送いたしておりますので、一週間程度の期間のズレもあります。この点あらかじめご了解ください。なお、発送封筒の左下に、何通に分けたものの何番目かを記入してあります。たとえば5―3とあれば、5通に分けたもののうち3番目のものという意味ですのでご確認ください。

■本誌合本ファイルをご希望の方は予約を受け付けております

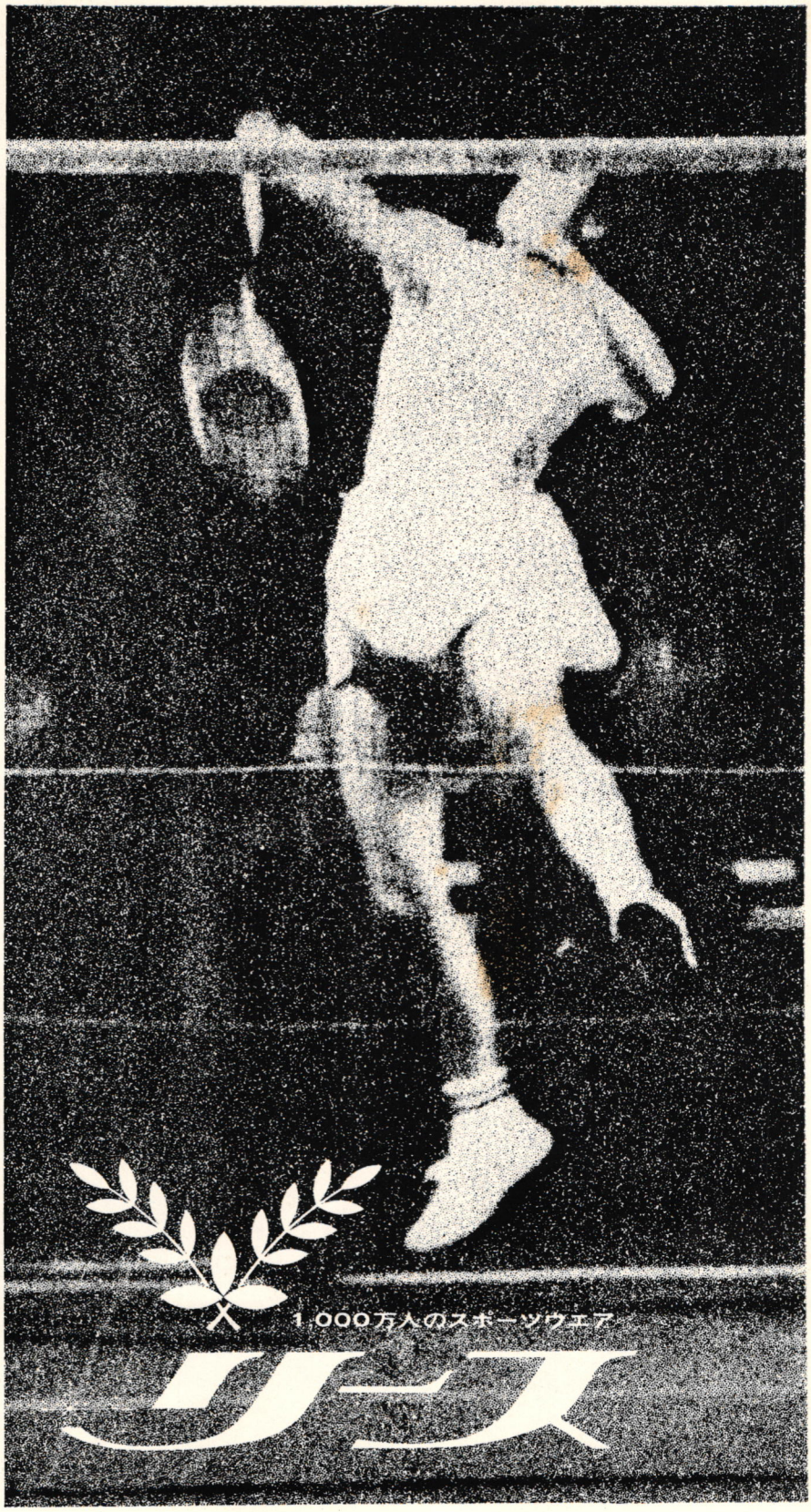
本誌を皆様はどのように保存していますか。今回、本誌に穴をあけることなく、糊もいらず、紐も不要で、簡単に一年分12冊をとじることのできる便利なファイルをご紹介いたします。

色は濃いブルー、衣クロス装で、本誌12冊をピッタリ保存することのできるファイルです。

定価はまだ未定ですが、五百円前後の予定です。

ご希望の方は、必ず往復ハガキでお申込み下さい。このときファイルを何冊ご希望かを忘れずに記入してください。現品の発送は5月下旬の予定ですが、代金は発送の10日前にご請求いたしますので、それからお送りくださるようお願いいたします。

この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件をプレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

K TOKYO
河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-1884・0453

月刊「バドミントン界」第32号　昭和四十九年二月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所　東京都渋谷区神南一ノ一ノ一　日本体育会館内　日本バドミントン協会　定価二百二十円



国籍は世界。ヨネックス。

ヨネヤマが
社名変更しました。

世界の一流プレイヤーに使われ、世界のコートで熱い視線を浴びてきたヨネヤマが、名前を変えました。いま、こころも新たにヨネックス。世界のレベルを決めるブランドに、ふさわしい名前です。グローバルな響きです。バドミントンを科学の目でとらえるヨネヤマの、力強い変身。ヨネックス。この5文字が、ことばの違いを越え、国籍を越えて、ひとびとの心をひとつに結びます。すでにもう、世界のひとたちはかってのヨネヤマをヨネックスと、そう呼びはじめました。さあ、あなたも。

No.9000
ハイステンレス
￥4,800(フレーム・ケース付)

YONEX